

8

原

つ

も

い

モ
ノ
カ
棲
む

淫
ら
で

こ
の
島
に
は

邪
悪
な
よ



この島には
淫らで邪悪な

モノが棲む

8

原つもい





〇〇三

第三十七話

〇三一

第三十八話

〇六一

第三十九話

〇八七

第四十話

一二五

第四十一話

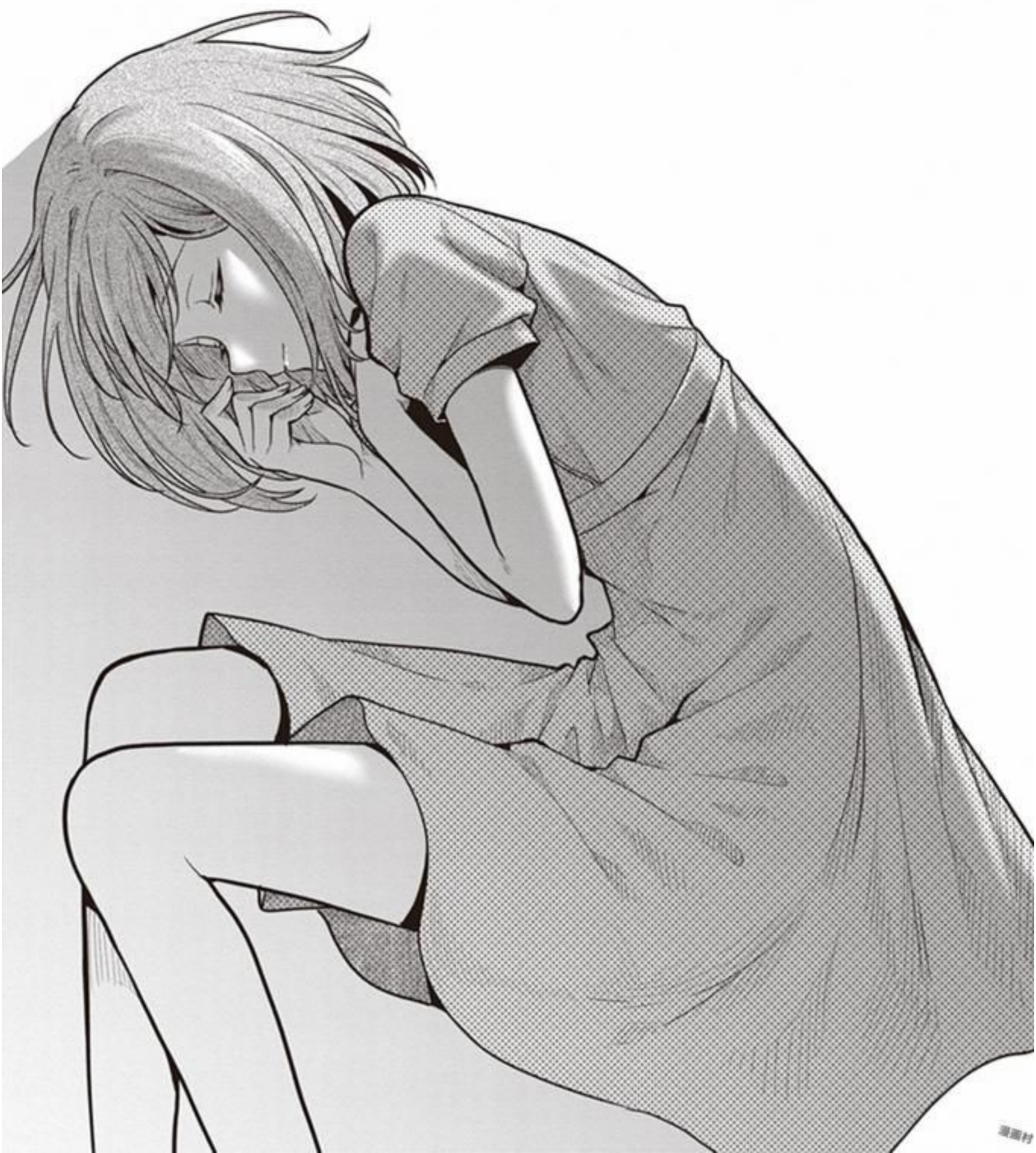
一五九

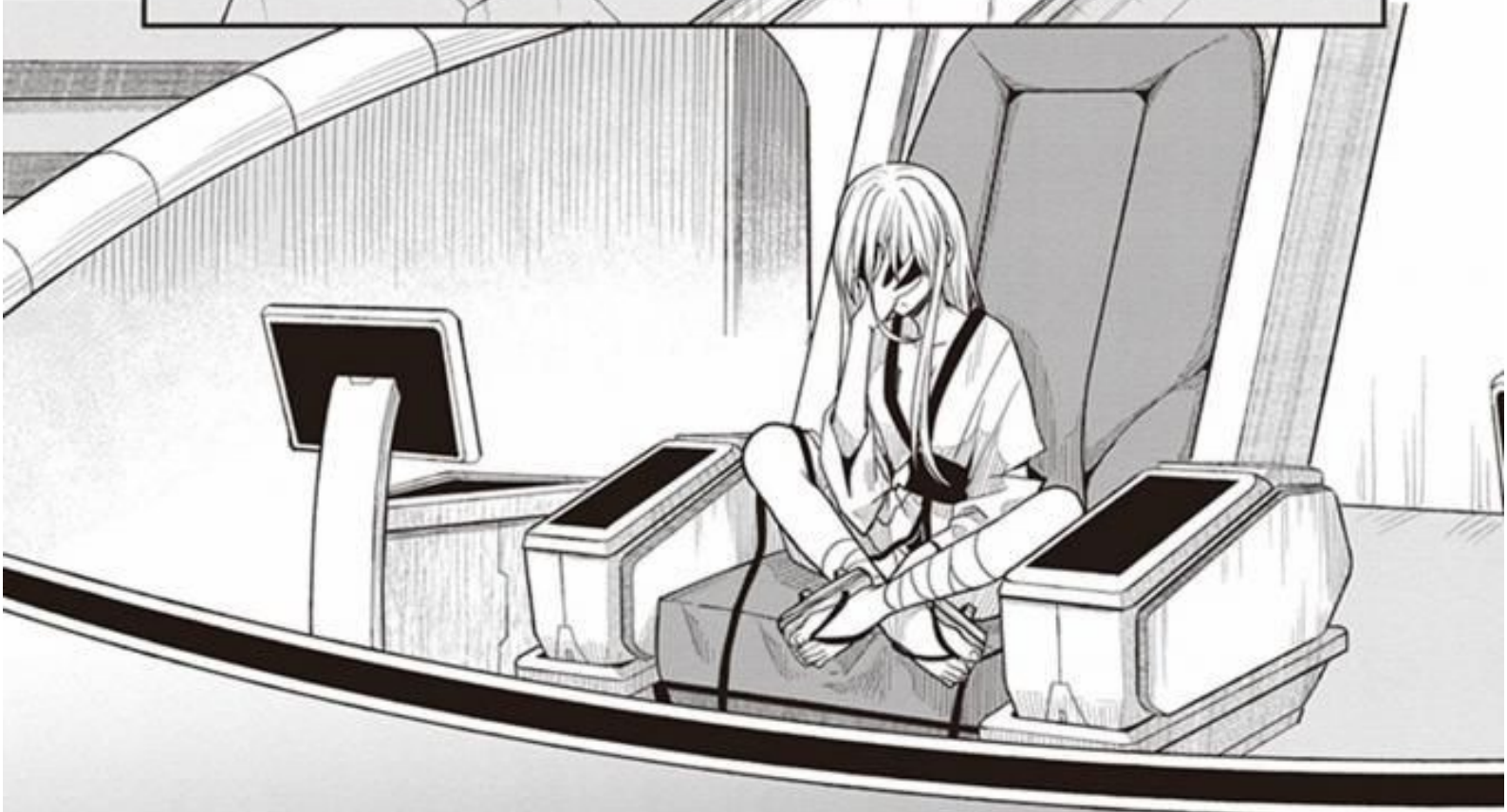
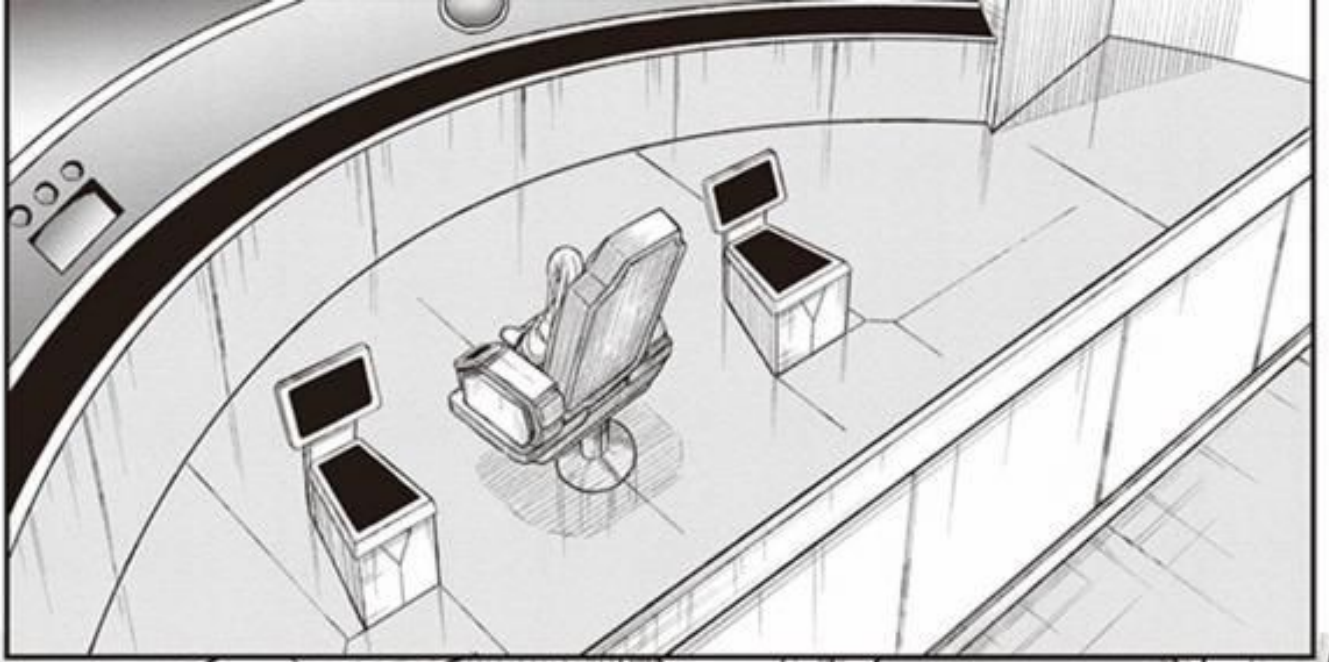
第四十二話

二〇三

第二十三・五話

第三十七話







いっ
たい
何を
する
つも
りだ…

あの
顔は
納得
した
顔
では
ない



…放
つて
おく
わけ
には
ゆか
ぬか

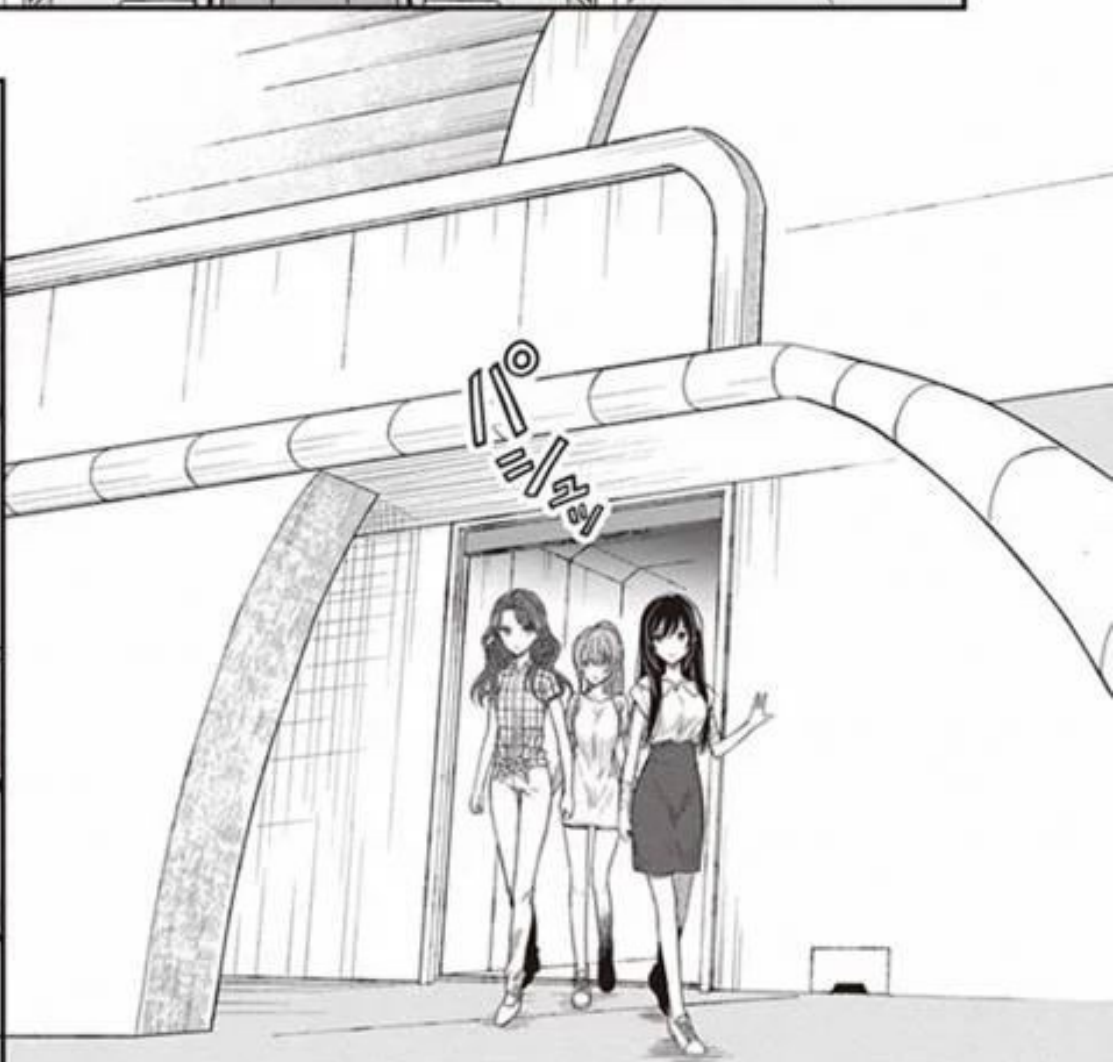
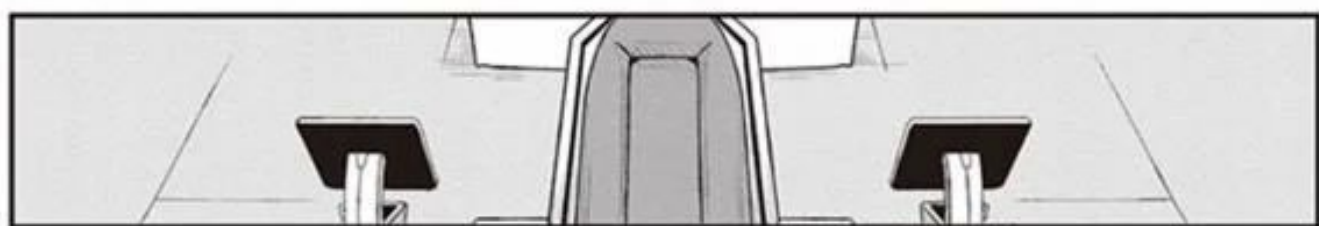


一
郎太
は
昔
から
いつ
も
私に
心配
を
かけ
る…

一
郎太
も
また
見
つ
か
つ
て
お
ら
ぬ
の
に…

そこが
かわいいところでも
あるのじゃが…







ほええ...

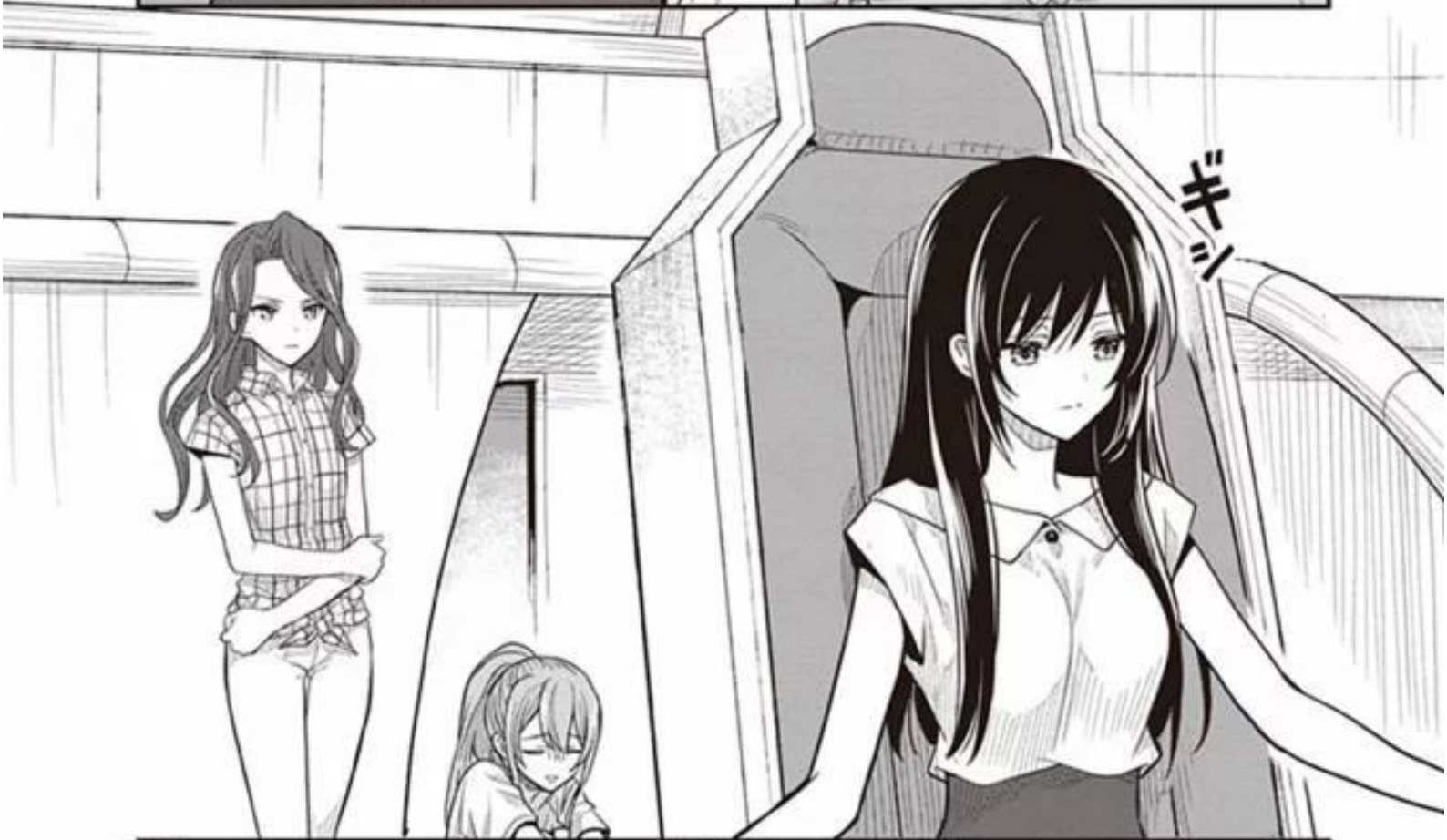


あたたかい...?



三



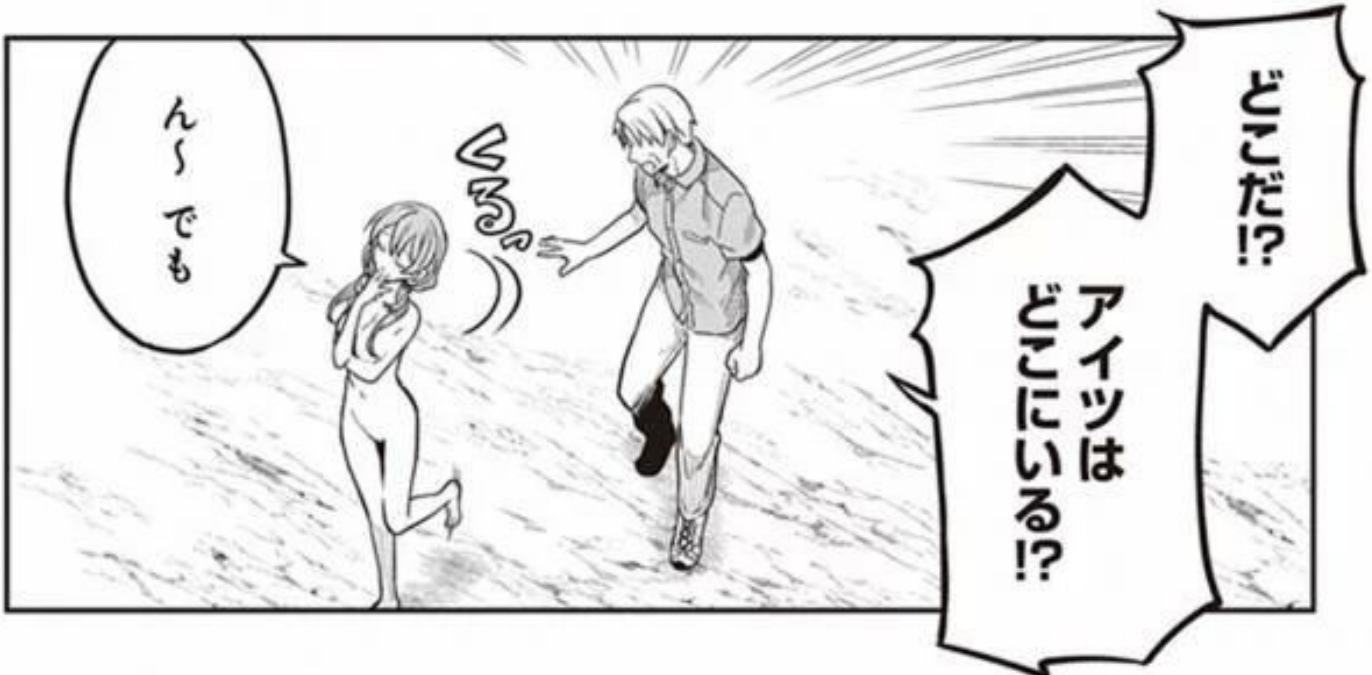






教えてあげよう
かなって思っ
て

居場所



ん〜でも

いっか

どこだ!?

アイツは
ジュリエット!?



その代わりー



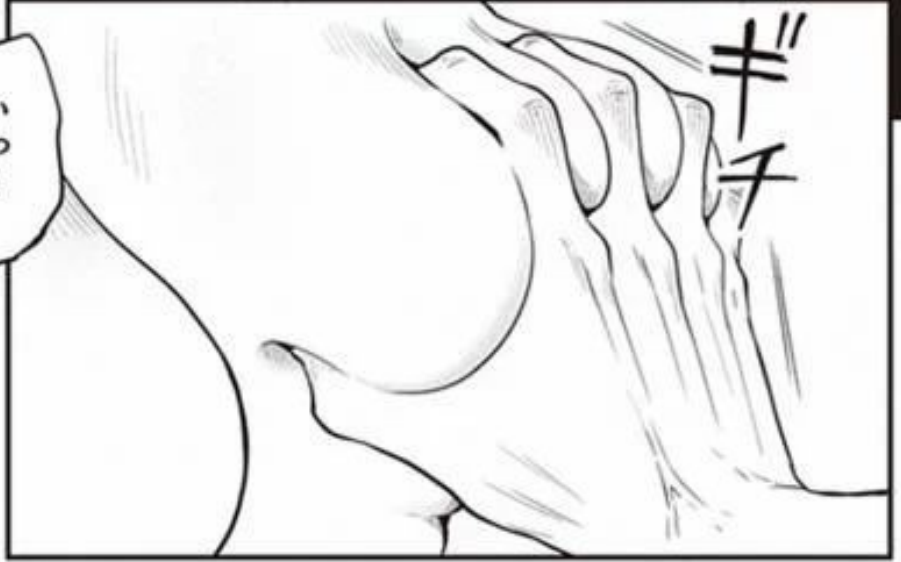
おのれが
信ん



あ

☆

ん...
ん



ギ
ギ





この暴力で
はいはい
支配されてる
感じ

たまらない
わあ……









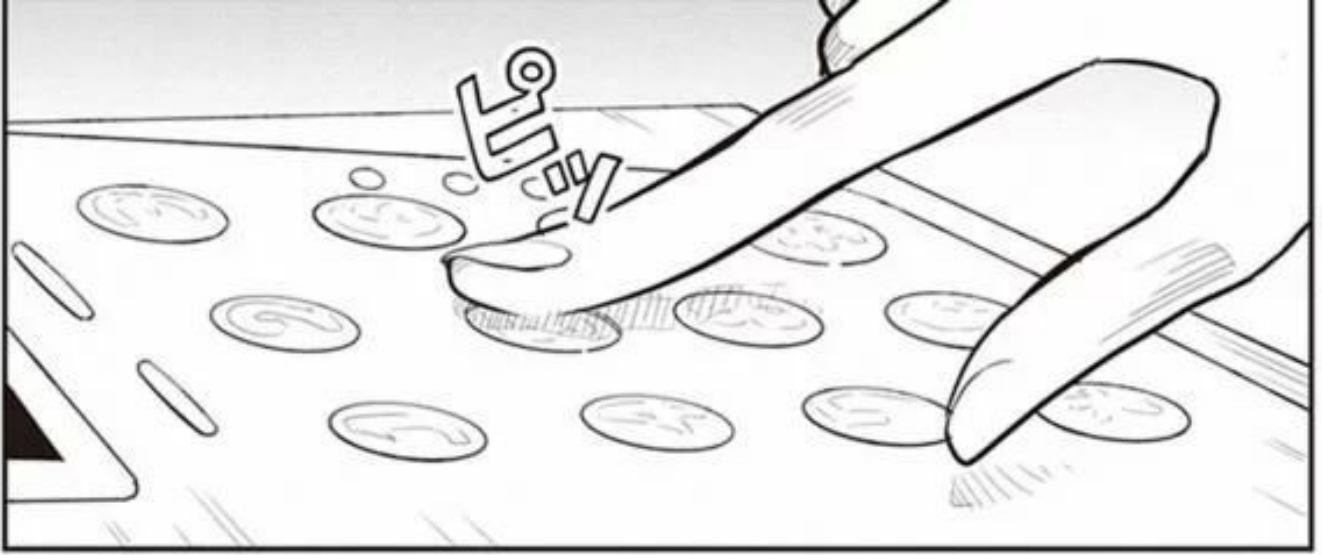
別に女衆と
戦争するわけ
じゃない
行かせてやれ



トイレに
行っていいかと
聞いている











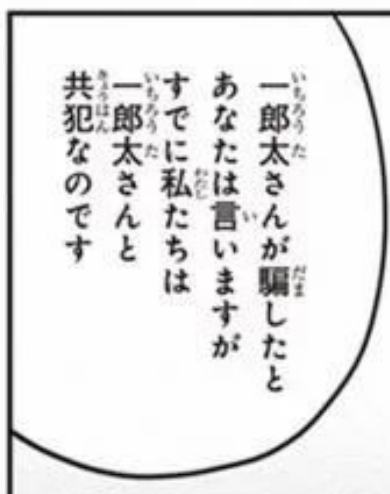




騙だまされていますよ



そもそもここにいる
我々の命は
偽りの命



一郎太さんが騙したと
あなたは言いますが
すでに私たちは
一郎太さんと
共犯なのです

言わば
世界を騙し
呪いの樹に
騙されている
ようなもの



もちろん
あなたもですよ



でも
わざわざ
電話してくれて
ありがとう





こういう
終わ^おり方^{かた}も
いい気^きがします



——さて

この迎^げ賓^{ひん}館^{かん}の
武器^ぶ器^きはどこに
ありましたっけ？

この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む



第三十八話















なま
仲間を呼んで
くるまで

でしようが…



むら
おき
村長…!!





何だ
どうした？



マジで
撃たれたんだよ！
万次と仁助は
殺されちまった！！

…どうして
ことだ？

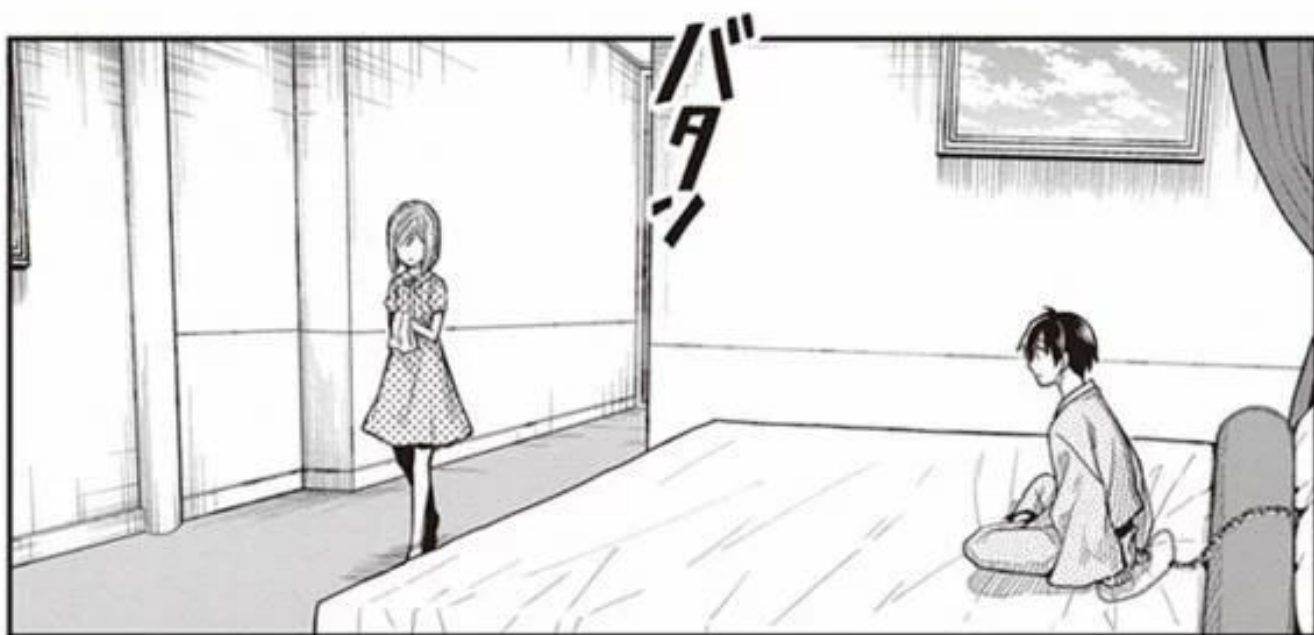
海は女衆の
冷静な
まとめ役

媛長が
あの性格だから
随分と
助けられたが…



そういうことなら
簡単な方法がある











ギシ



大切なものを
守りたい気分
なんです



僕かい？

大切な
もの…



そうです

長い長い
私の人生で



初めて誰にも
渡したくないと思った
私の宝物なのです

きつと



ただの勘違い
ですが



まあ

宝物なんて
そんなものです

セミの幼虫の
ぬがら
抜け殻とか

そういうものと
かわり
はないですよ



なんだか悪いね
僕のせいで



気にしないで
ください



…気にする
のなら



私を後悔しないで
いいくらい
気持ちよくして
くださいな









あの時

大仁田の殿様が
攻めてきて
男衆はほとんど
死にかけて

女衆も身体を
汚された

一郎太さんが
どうしたのかを
聞いた時に

男衆は身体を
治すことを望み
私たちは古い身体を
捨てることを望んだ



永遠に同じ身体を
治して生き続ける
化け物と
永遠に身体を
乗り替え続ける
化け物……

一郎太さんが作った
二組の化け物が
お互いに殺し合おうと
なるなんて

……何の
因果でしようか



でも
滅べば
いいのです

ギョッ

化け物など

……居ては
いけないの
ですから



…ちよつと

なに？

はら
腹が立っ
ただけ
です
きにし
ないで
くだ
さい





僕の宝物は
なんだろう？

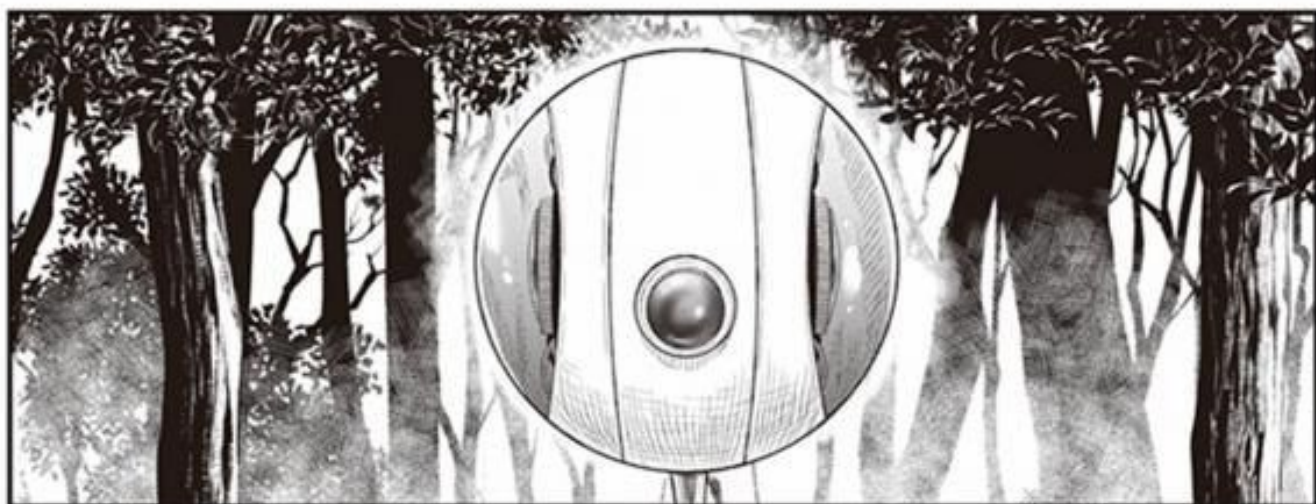


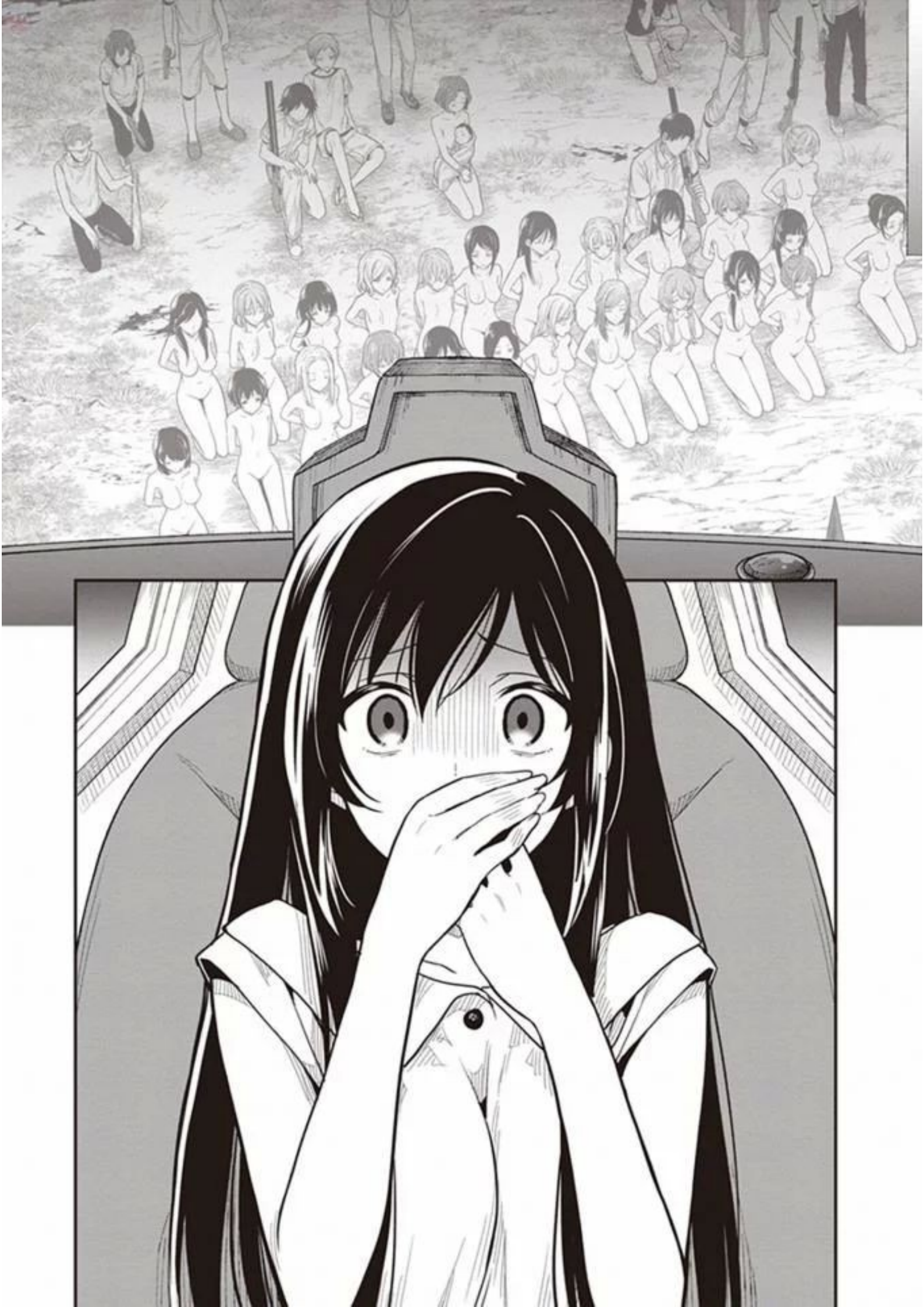






…何^{なん}じや

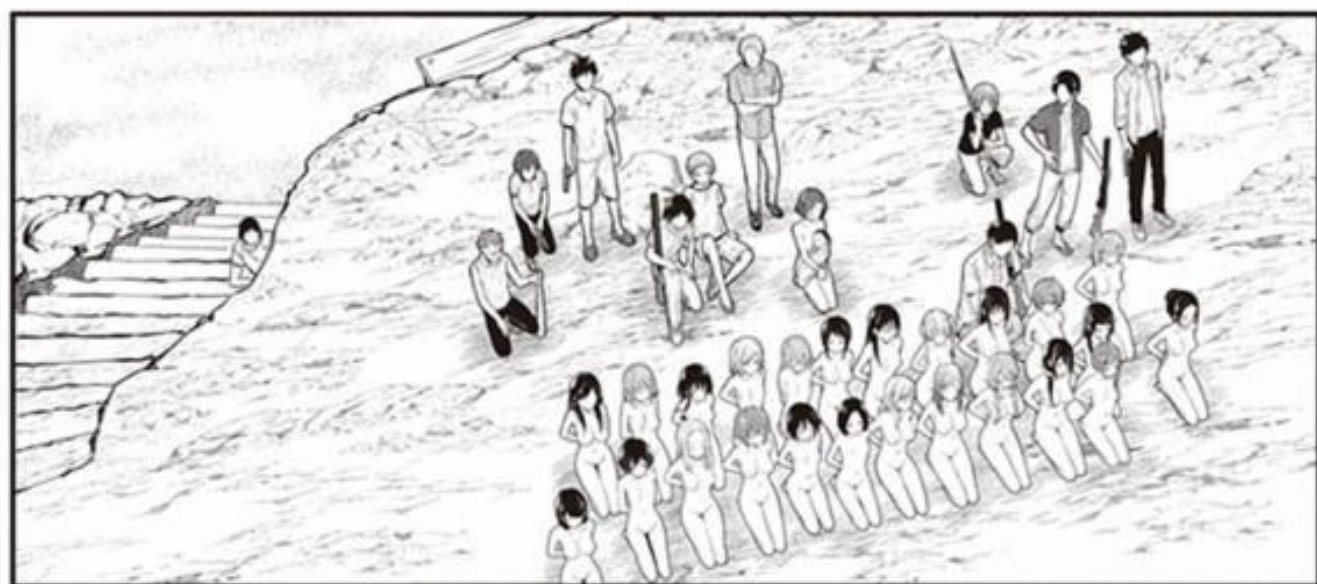
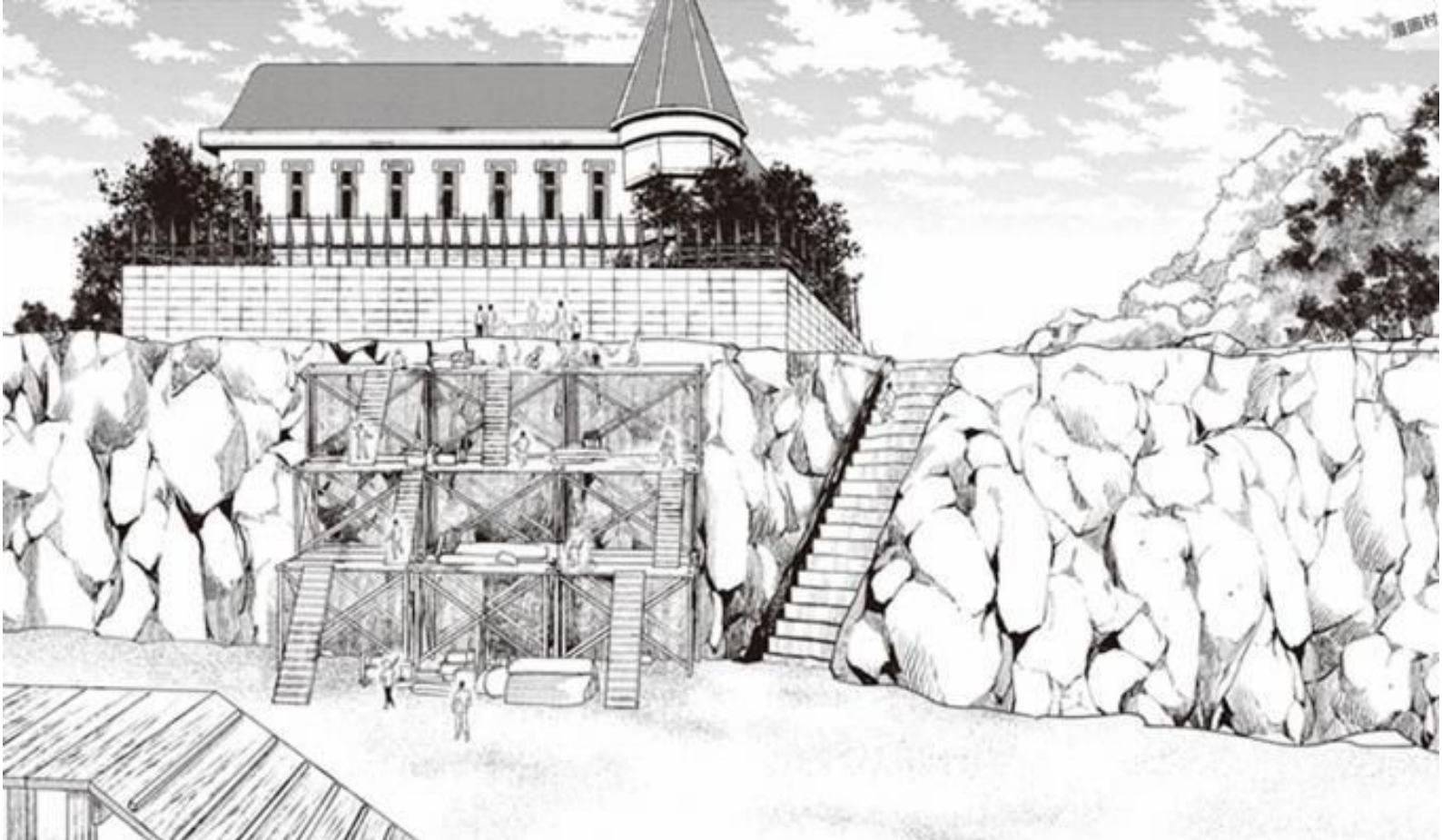






第三十九話







聞こえてるな!?

おい
海!



今ならまだ間に合う!

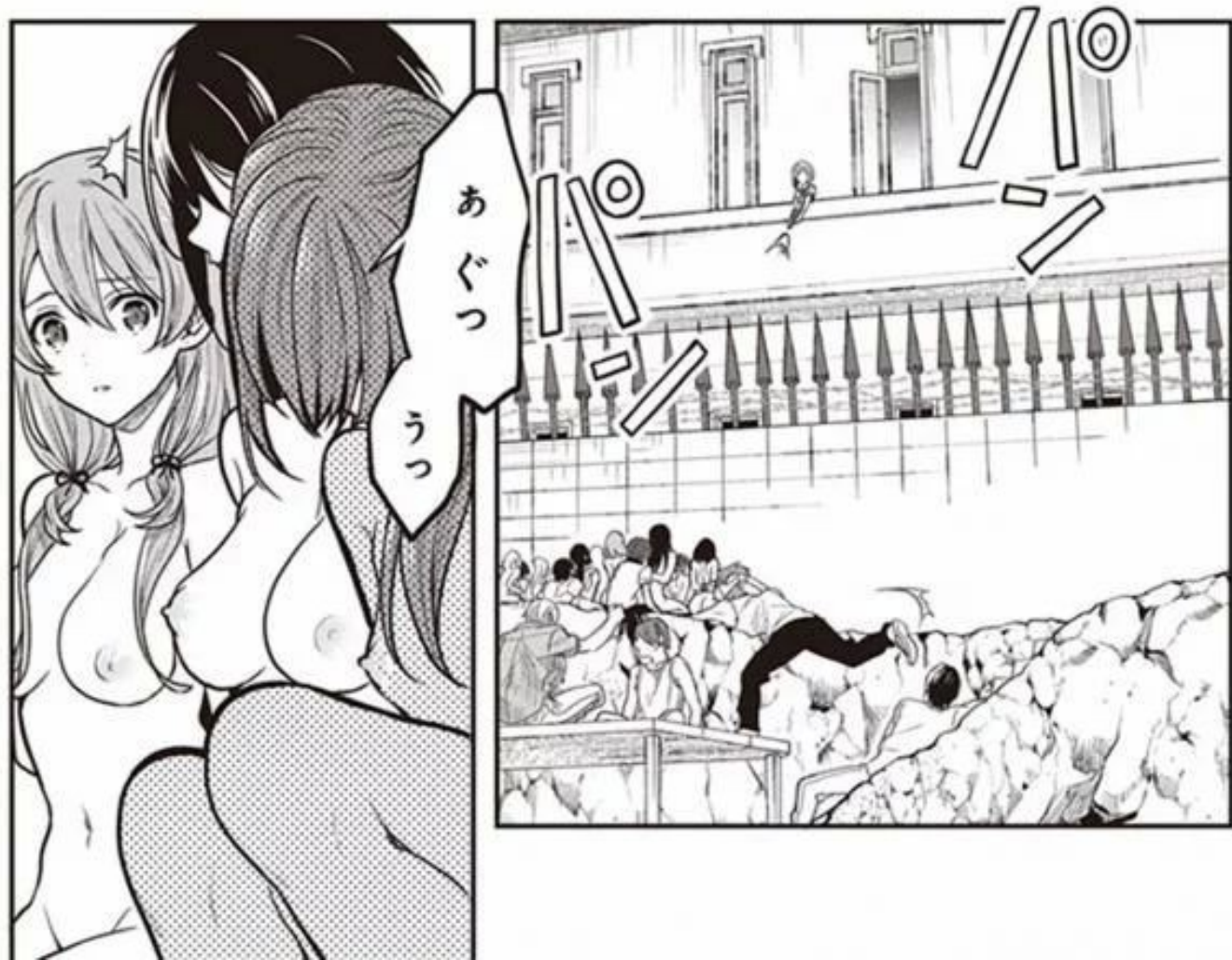
武器を捨てて出て来い!!













...いった
いたい...
いたい...





ちよつと
待ってよ

ちよつ
グイ

えっ

痛い
やだっ!



グイ

い
行け!



少し
痛い
の
だ
た
ら
い
い
け
ど
す
ご
く
痛
い
の
は
ち
よ
つ
と
…
!





いや
ちが
違
う…

…というか

あなたが
このことを
教えたの？



まあ
さゆり
小百合さん



ぱっ



あら
ごめんなさい
当たっちゃった？





ちよ…

ちよつと
こ^こういうの
困^{こま}る^まんだけどお…



ねえ…

せめて
頭^{あたま}撃^うつて
もらって
いいかな？







撃て!!!





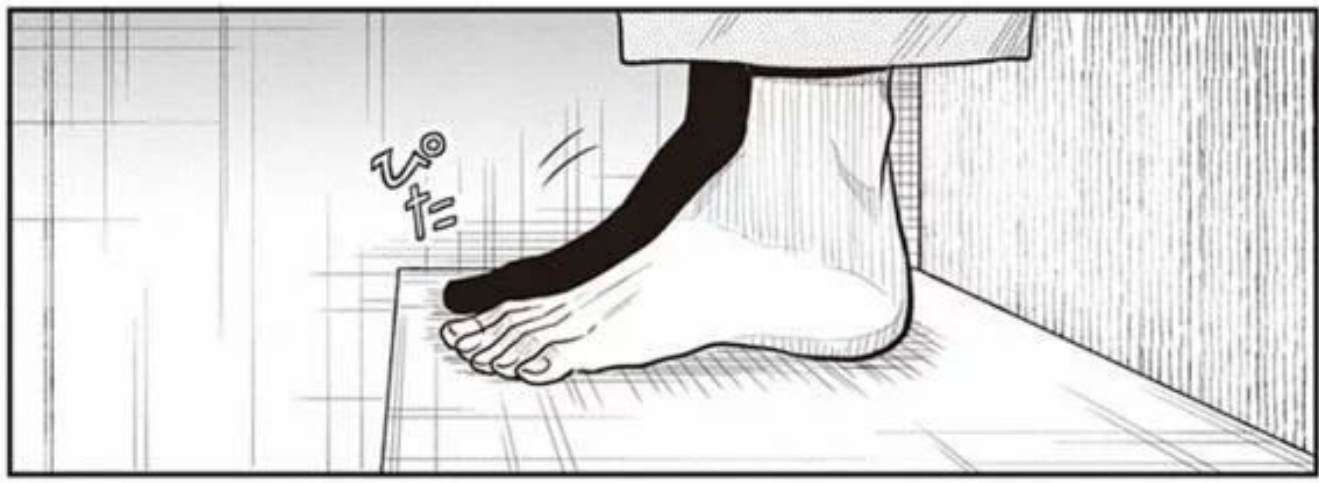






人間は
面白いね

男衆も女衆も
それぞれの
「宝物」を守るために
あんな風に殺し合う…



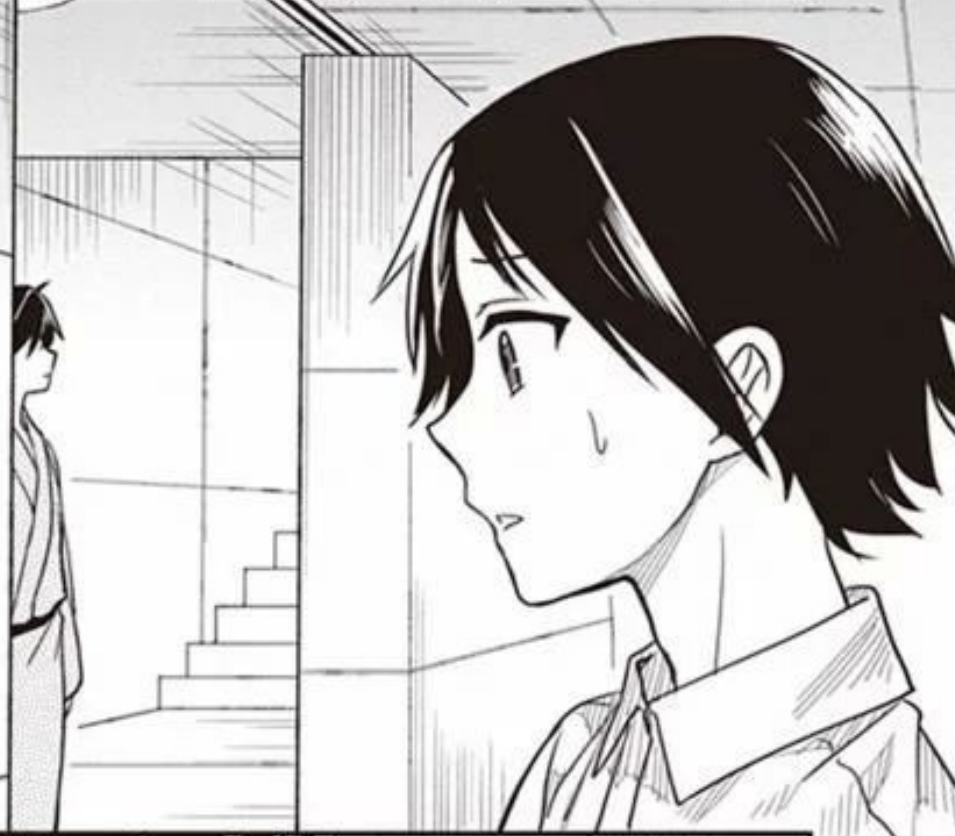






ってかやりやあ
かって
勝手に増えるだろ

しょうはいどうぐ
商売道具なら
また増やせるさ





...これが
人間にんげんだよ

この島には

淫らで

邪悪な

モノが棲む

この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む



第四十話







そして

大切なものを
 大切にだからこそ
 傷つける存在

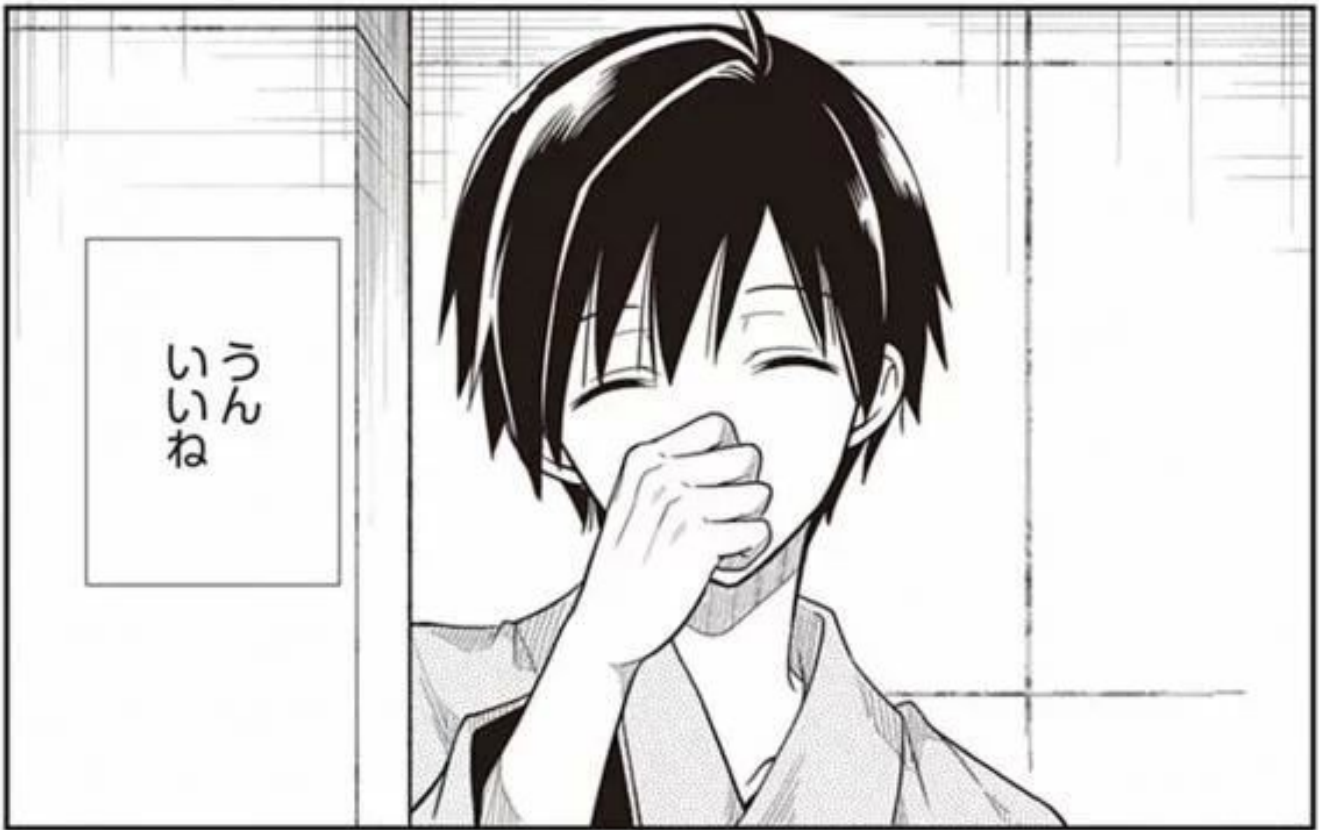


SS4 SS
for JVSS

…大切なもののために
 そうでないものに
 破壊をもたらす存在

人間にんげんって本当ほんとうに
おもしろい







そうだった
そうだった

わす
忘れてた



僕はあの
非人間的な役目から
人間になったんだった



そっだよ

僕は人間だ

彼らと同じ



!?

ねえ 君たち

彼らの 同胞だ



こらっつて…

おっ

おい



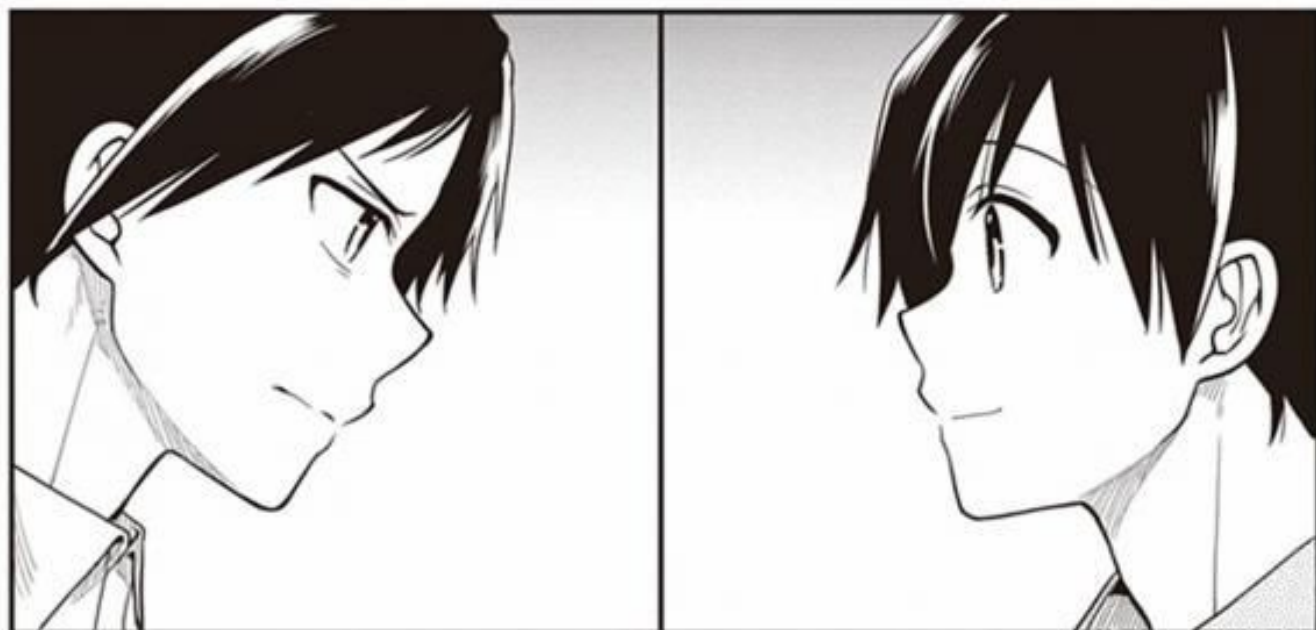
あれ…
だよな？
間違っ
てない
よな？

て
ま
ま
が
省
け
た
っ
て
こ
と
だ
ろ



なん
で
睨
む
ん
だ
い
？







ここで殺しや
いいだろ

はあ!?



馬鹿が

このまま
連れて行くぞ

おいおい



村長があれだけ
執心してんだ
連れて行こう

こいつには
恨みもあるしな

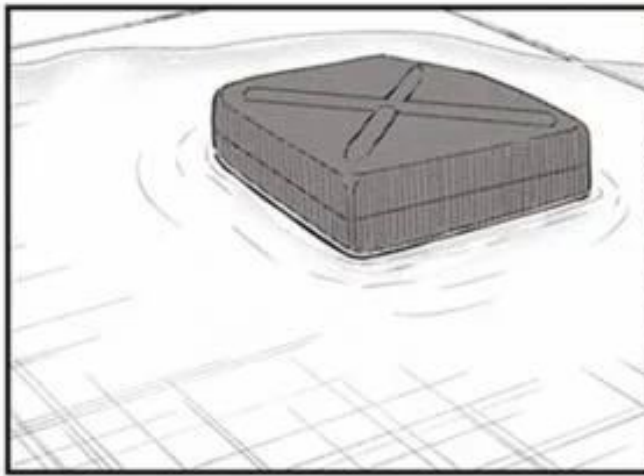
.....













攻勢を強め
その間に裏手に
人を入れて
火をつける…

この子は
女の子もいるのよ
お構いなしとは



油断しました…
このための
攻勢でしたか



あの男の
考えそうなこと
ですね…











うおおおおお











先にこいつを







逃^にげて…

くだら





なんだよ
...これ

...なんだ...



くそっ

ゴッ



女はすぐに
呪いの樹に
逃げやがる

つつても
抜け殻か



痛いし…

頭の中を
痛みの信号が
めちやくちやに
迷走してるし…



おら
立て!

おかしいよ

人間って
こうなのか?

こんなに弱い
存在なのか?

こんなところは
望んだ世界じゃない

帰らないと





そうしよう



……うん

何を
言って…



うおっ
おい!





黙れっ

ガッ

気でも
狂ったのか!?

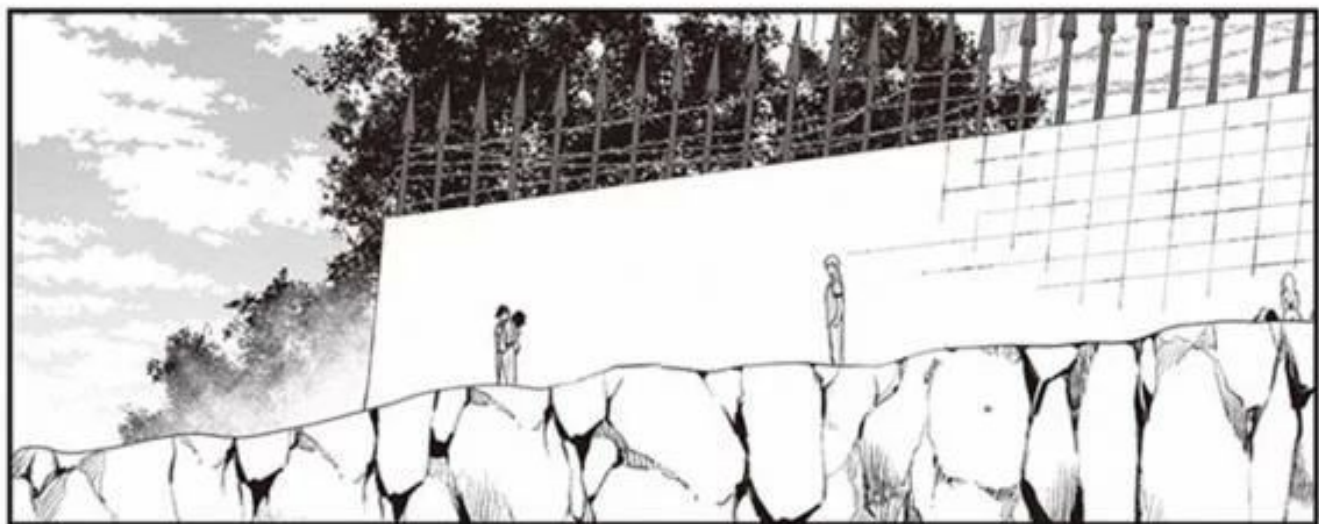
うわああああああ!!!



……
なんで

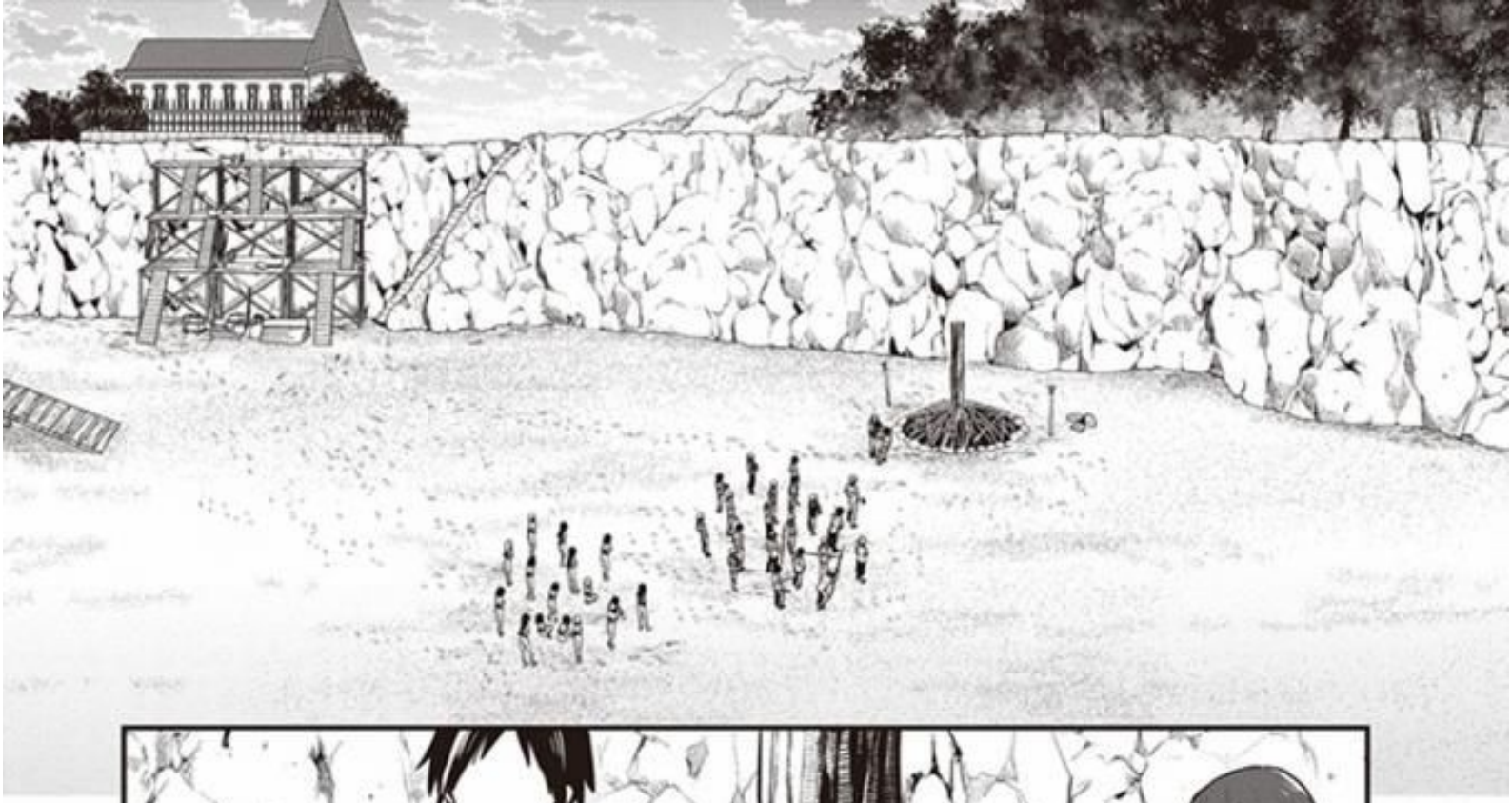


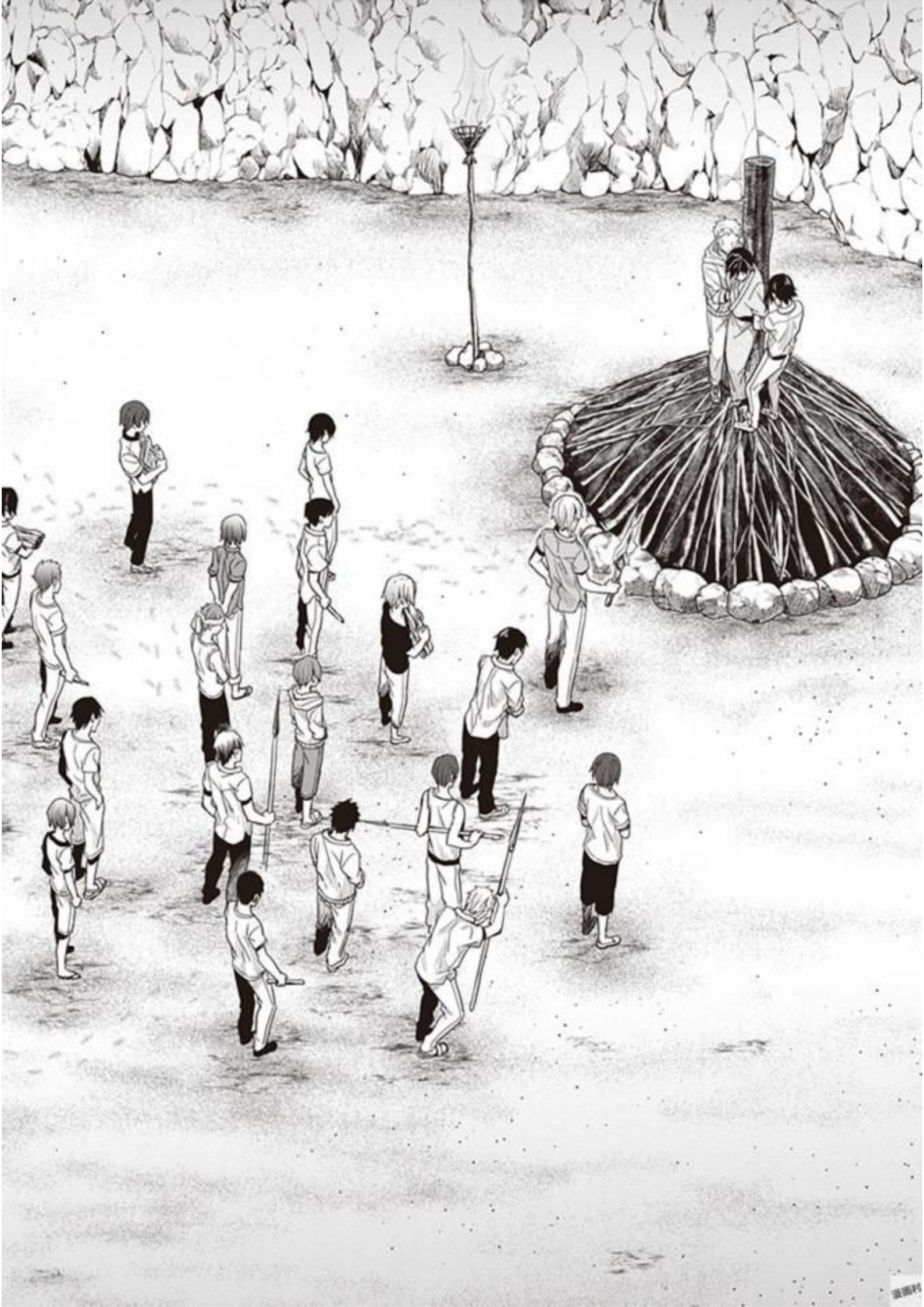
なんで管理人
こんな時に
いなくなつたんだ…



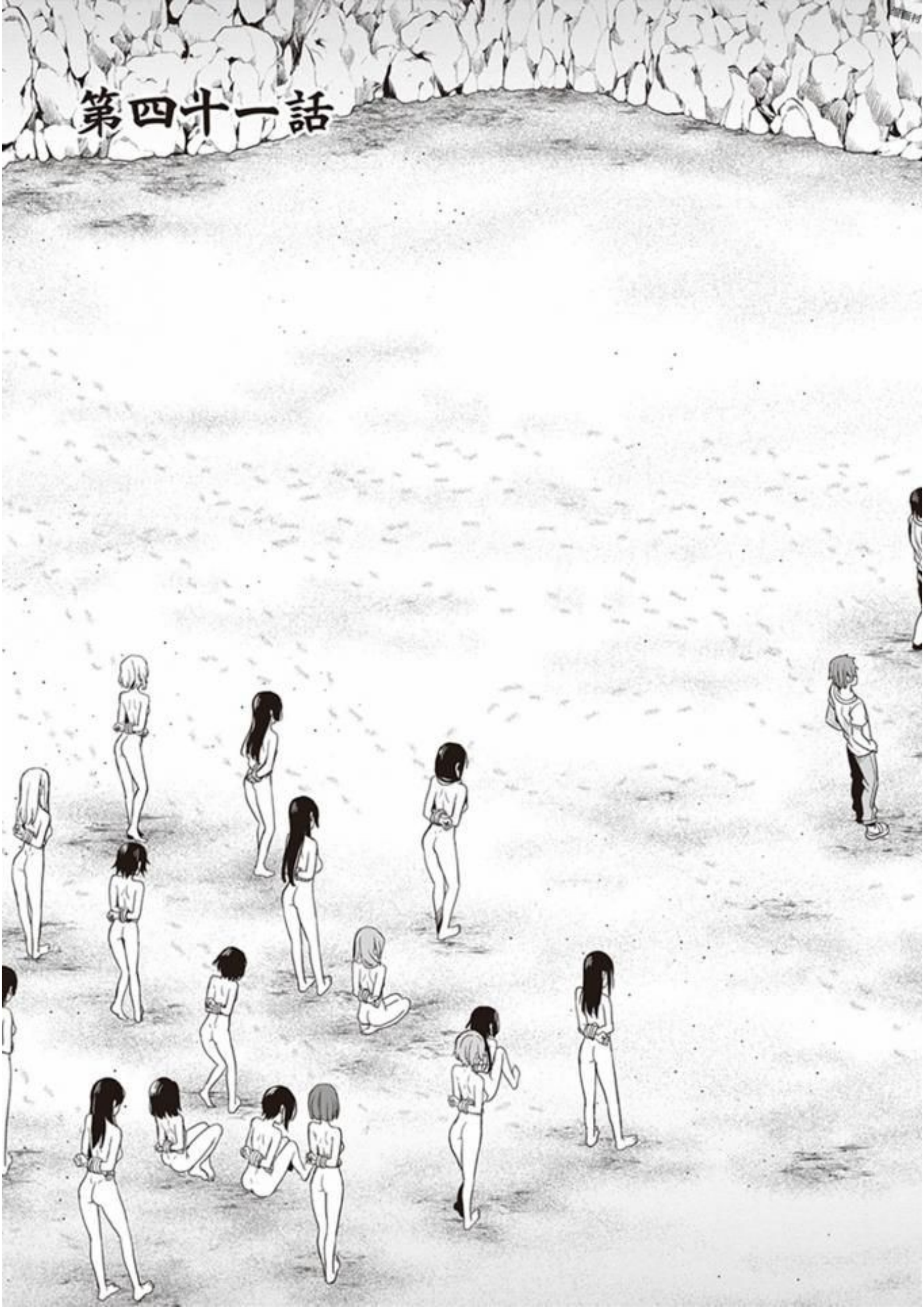


この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む





第四十一話





どうして
こうなって
しまったのか



あの
「管理人」の
思考の裏で

俺はすつと
……まるで演劇を
見るように
見ていただけなのに



でも



「管理人」の味わう
喜怒哀楽も
すべて
楽しんでいた



痛みも
楽しみも
快樂も

おへん



たしかに
行動は俺が
選んだもの
じゃない

俺にはそもそも
誰かの快感神経を
刺激する能力
なんてない





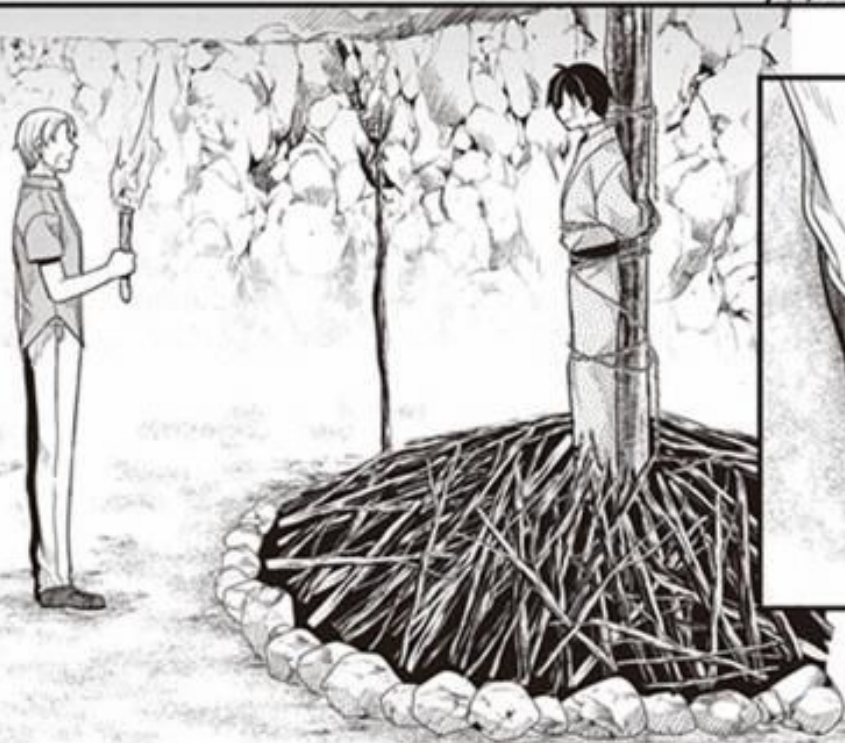
なのに
楽しんだ

お

だから……



それ
だから……





たぶん
その罰が
当たったんだ





ああ
……そうか



俺はここで
死ぬのか

俺は
やっぱり
そうなんだ

死んだほうが
いいような
ダメなやつなんだ



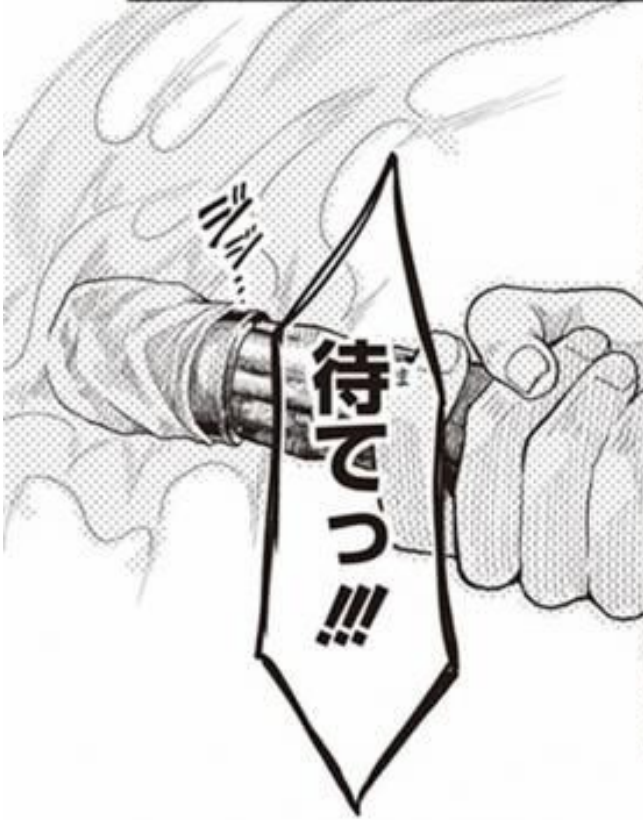
だって

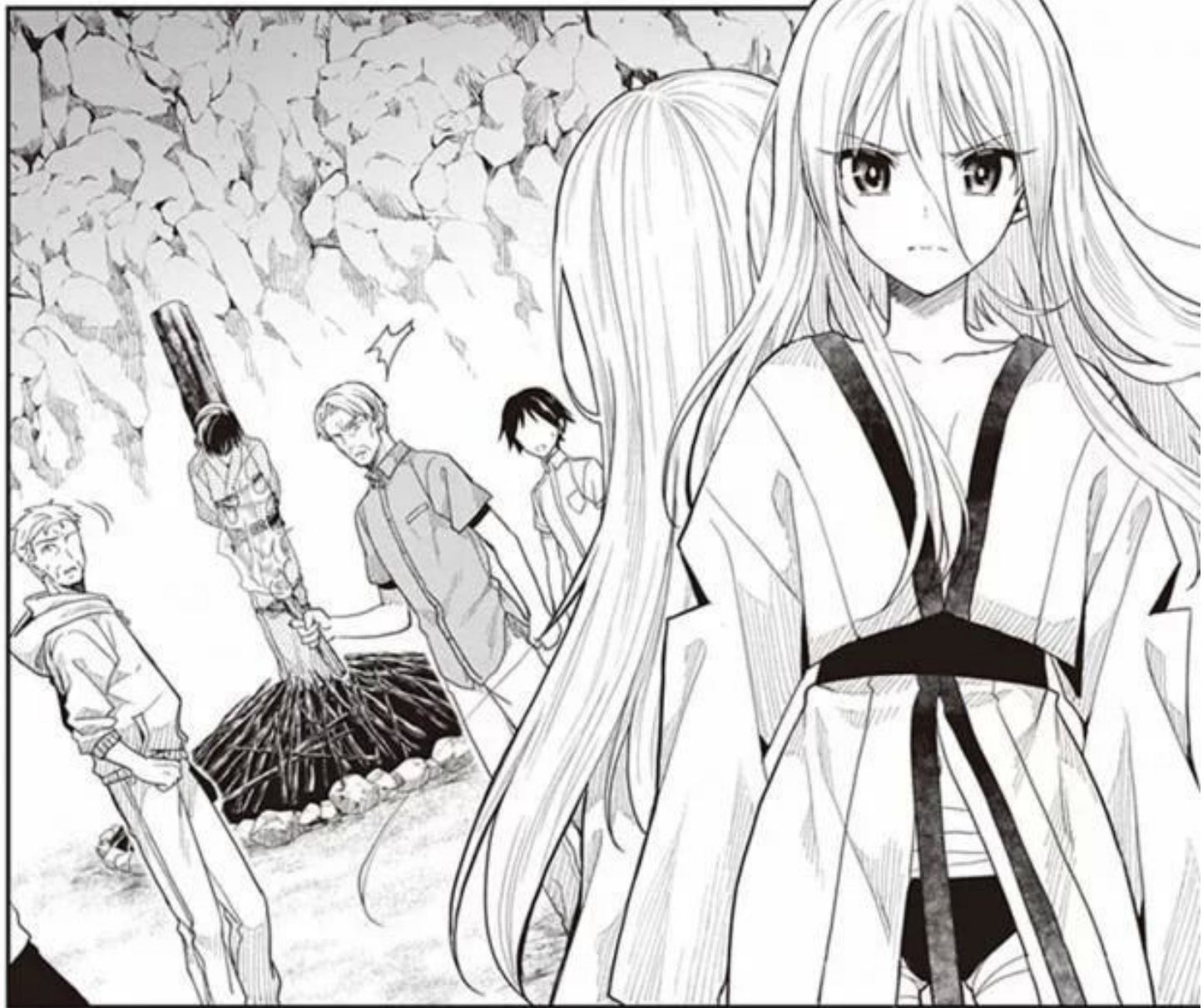




はじめろぞ

目を
そらすな









待っている
すぐ助けてやる









これを
止めるため
には

一気に
現実に引き戻す
必要がある




女衆も
状況に
流されている

それに私は
もともと
女衆の人望が
あるわけではない

あくまで
呪いの樹との
アクセス権で
重宝がられている
だけだ








お前^{まえ}たちはいつも
一郎^{いちろう}太^たばかり
非^ひ難^{なん}するが

忘^{わす}れていないか？



一郎^{いちろう}太^たの
傍^{かたわら}らには常^{つね}に
私^{わたし}がいた

つまり
一郎^{いちろう}太^たに
罪^{つみ}があるなら
私^{わたし}も同^{どう}罪^{ざい}だ



いちろうた
一郎太を
罰するなら

まず私を
罰するべき
だろう!!



……ならば
そうさせて
いただきます



何を言い出すかと
思えば……



だが

私が死ねば
どうなるか
わかって
いるのか



?



私が先ほどまで
どこにいたか
知っている
だろうか？



——かかった



船に封印を
施してきた

私がおらねば
あの船は二度と
機能しない





…騙され
ませぬぞ

ならば
試してみると
いい



……
どつする
竹蔵

もちろん
封印など
していないが

マハがいらない今
あの船に一番
詳しいのは一郎太と
私だということ
竹蔵たちにも
わかってるだろう



所詮
男衆はマハに
言われるがまま
メンテナス
していたにすぎない



真の意味で
あれを
理解して
いたのは

一郎太とマハ
そして二人から
何かを聞いていた
かもしれぬ私――





媛長様も
縛り上げろ



いい加減に
しなさい



とにかく
あの船がなくなるのは
困る...!

まっ
待つてくれ

待つ必要など
ない



びゅん



……ふっ…



せめて確認する
時間が欲しい



狙い通り
不死を失うことへの
恐怖が男衆の顔に
冷静さを
取り戻させた

このまま
竹蔵との
分断を図れば…

証拠が
必要だ！



確かめもせず
もし船を失ったら…

本当だったら
どうする



…わかつた
なら媛長は
待っておこう



だが
こいつは
別だ





この男を
このまま
置いておけば



あの悲劇が
また起こるぞ



なごほ
じじい……

これだけ
言われても
男衆は
迷っている……



私^{わたし}はここから
動^{うご}かぬ



VING



一郎^{いちろう}太^たを
焼^やき殺^{ころ}す
というなら

私^{わたし}もこの
愛^{いと}しき人^{ひと}と
命^{いのち}をともしする
だけだ



もつとも



それは
男衆たちも
同じだ



常世の村に
入れぬまま

ほかの人間と
同じように
朽ちていけ



…思えば
この化け物に
生み出されて以来

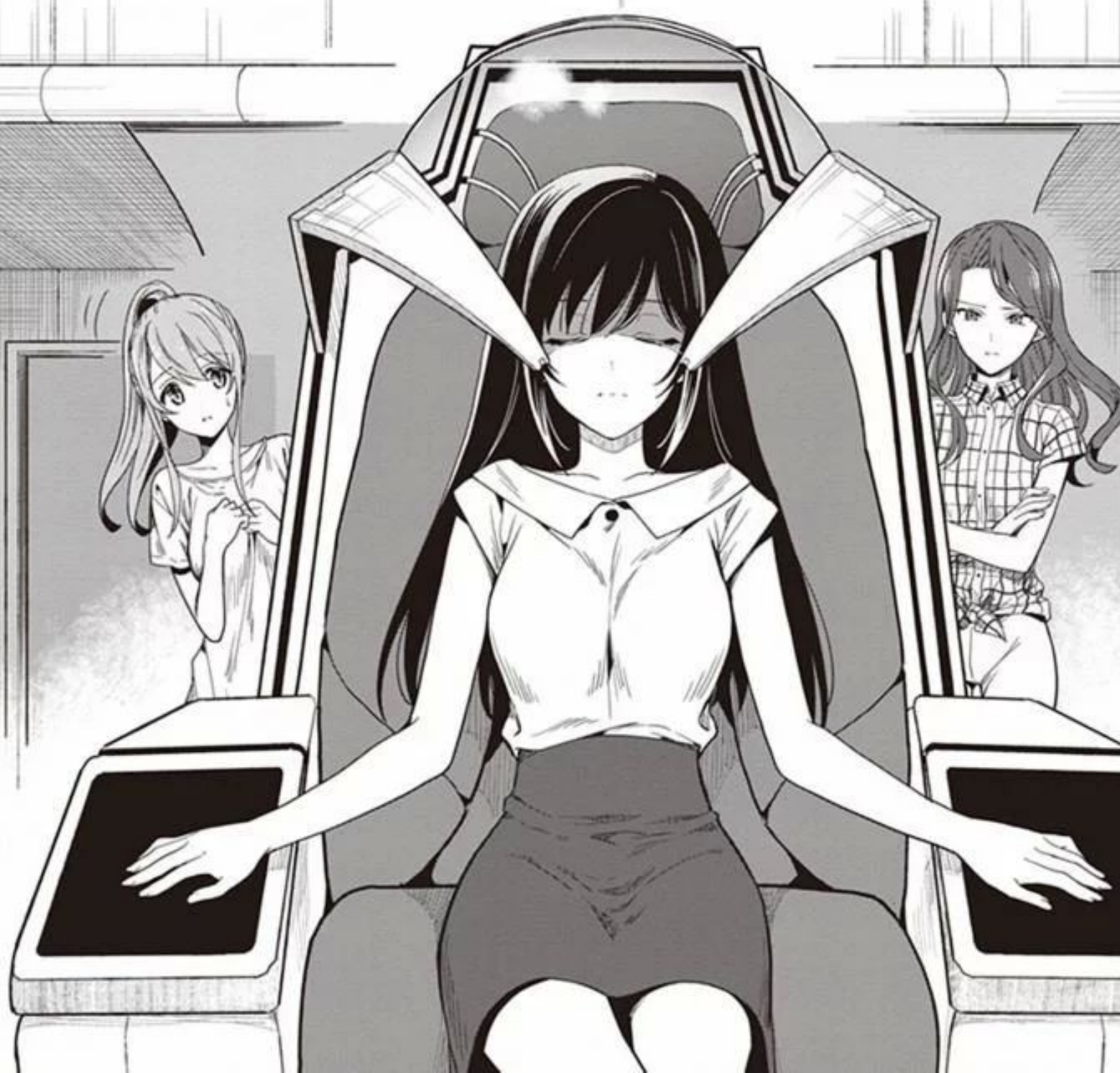
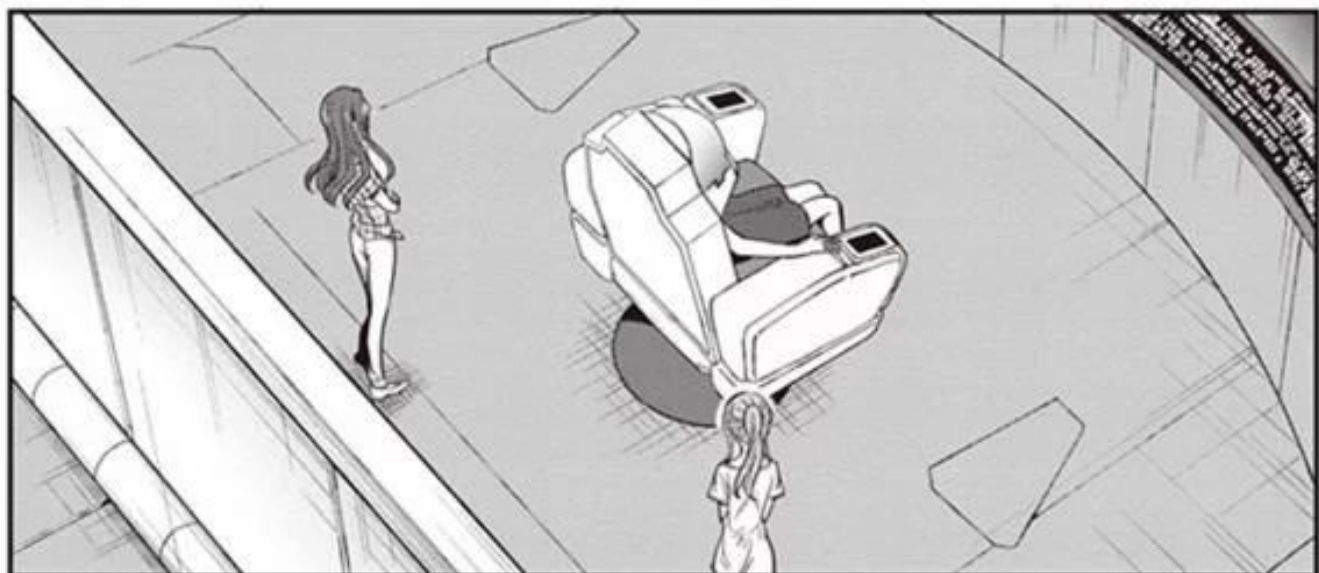
お嬢様の
ワガママに随分
振り回されて
きましたな

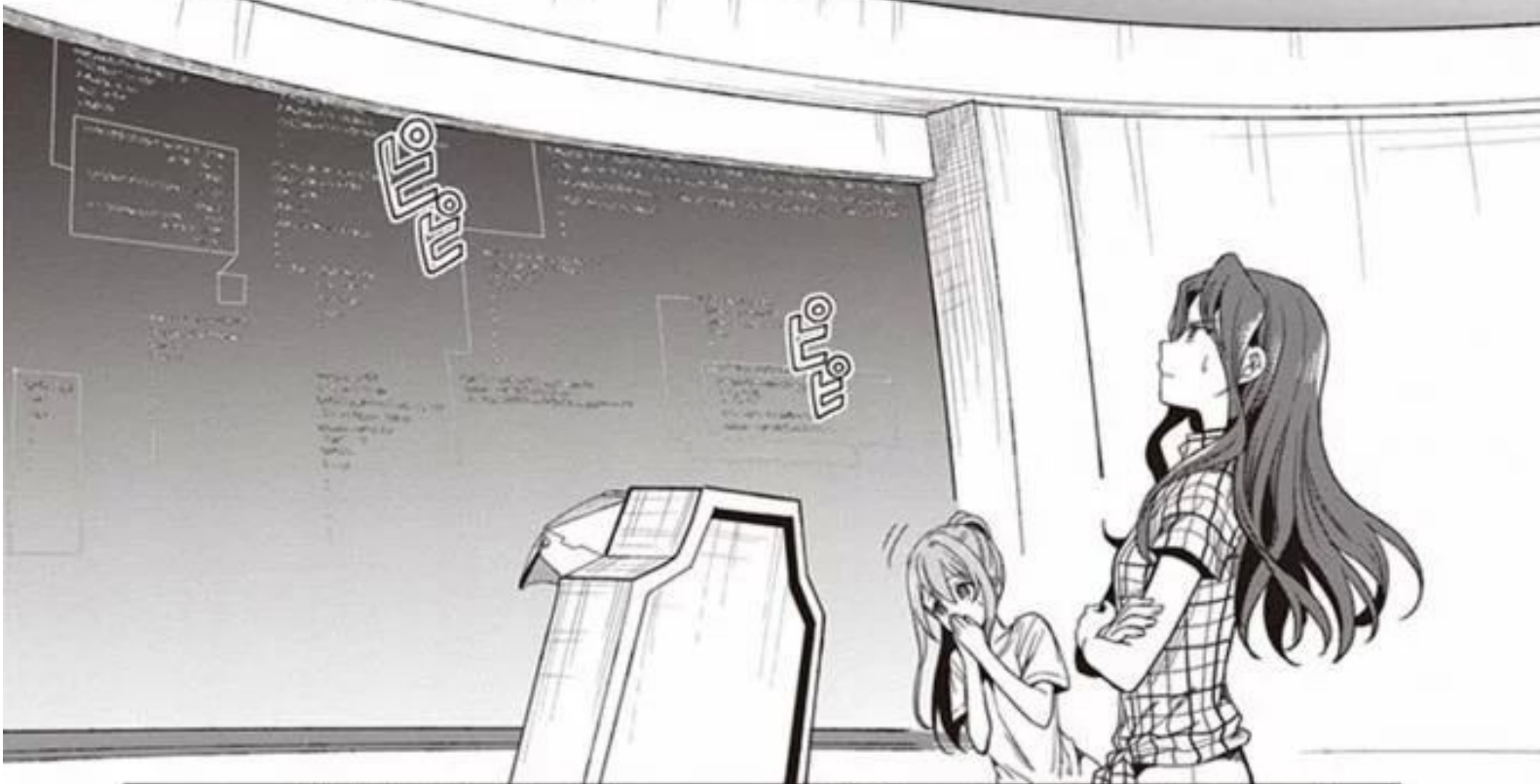
それも
終わりだと思おうと
少し寂しいですぞ

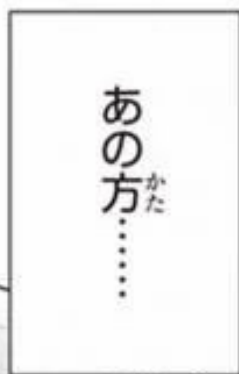
この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む

第四十二話











真しんの観かん音のん姫ひめ



…でも
どうして…?

そもそも
彼女は

島しまに侵入しんりゅうしてきた
戦国大名・結城の手で
殺されたはず…



殺ころされたはず





急がないと

管理者が
暴走してる

キョ

キョ

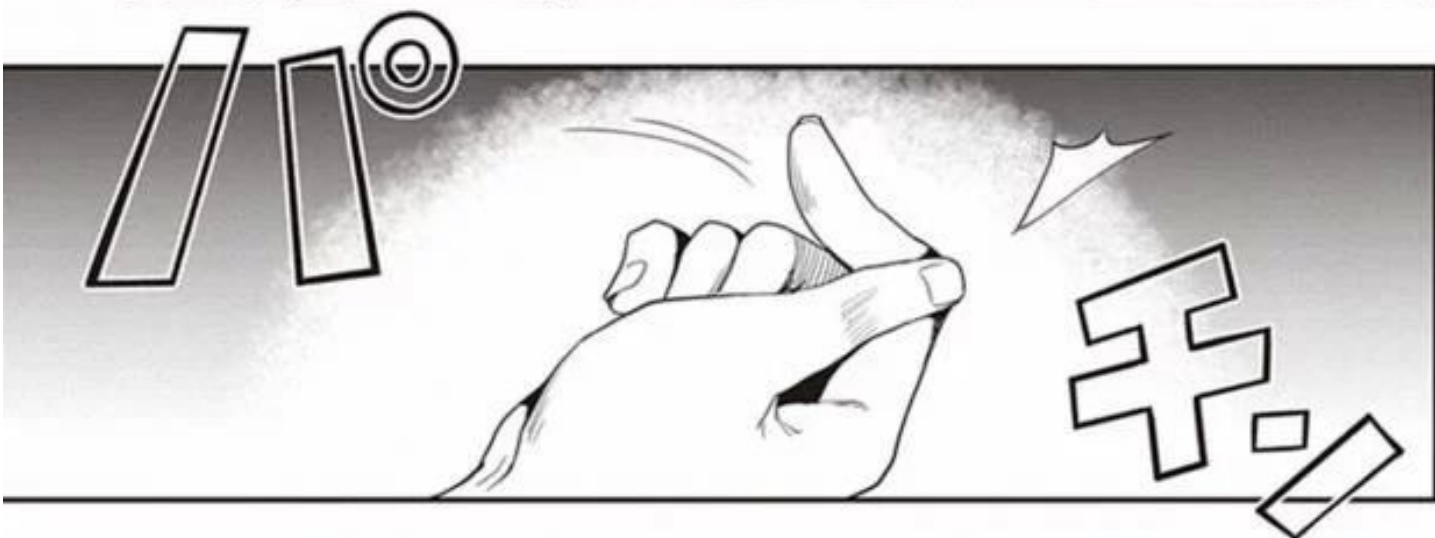
梶浦君の身体を
乗っ取っている
管理者をこちらに
戻すためには……





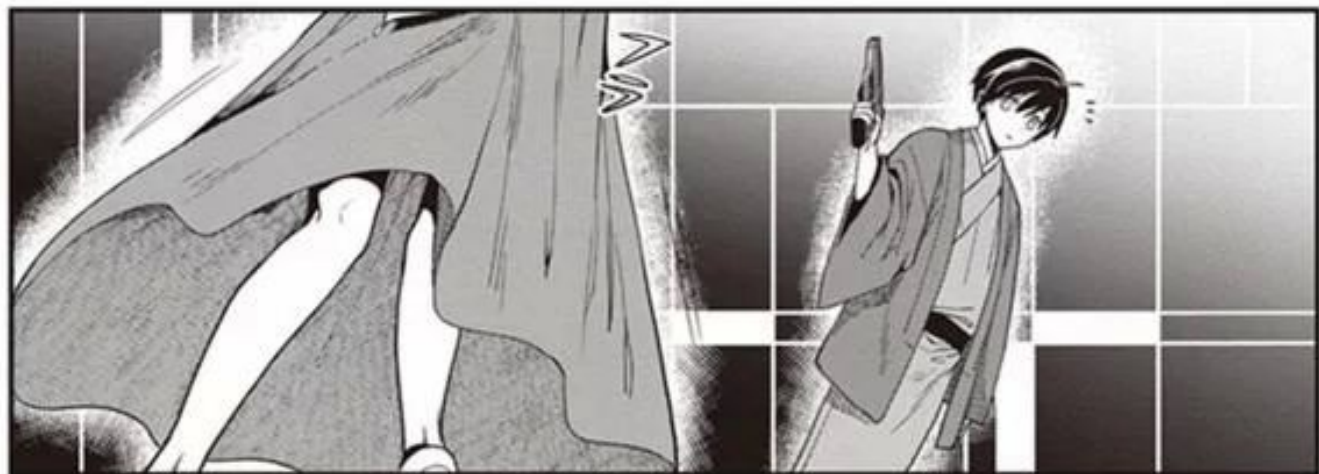


アバさん



ゴッゴッ













一郎太を
殺した
負い目を

一郎太を
救うことで
打ち消したい



!?

ということす

そのようなものに
巻き込まれるのは
ゴメンだ



気持ちには
わかりませんが





世界を…

……
俺が……？

滅ぼそうと
した？



ああ
そうだ



お前は

あの船を
もう一度飛ばすため
世界を犠牲に
しようとした

観音姫様——マハ様が
結城の兵士に
傷つけられたとき



お前は——

≡≡≡





石

まだ治なごしていない者ものは
一郎太いちろう様に頼たのんで
すぐさぐに治なごしてもらえ

酷ひどいケガは
治なごしたな!

ドッ



人数をそろえて
もう一度
突撃する!!



さっきので
もうみんな
修理は終わった
はずだよ

……おじ、



大丈夫



あの

あ



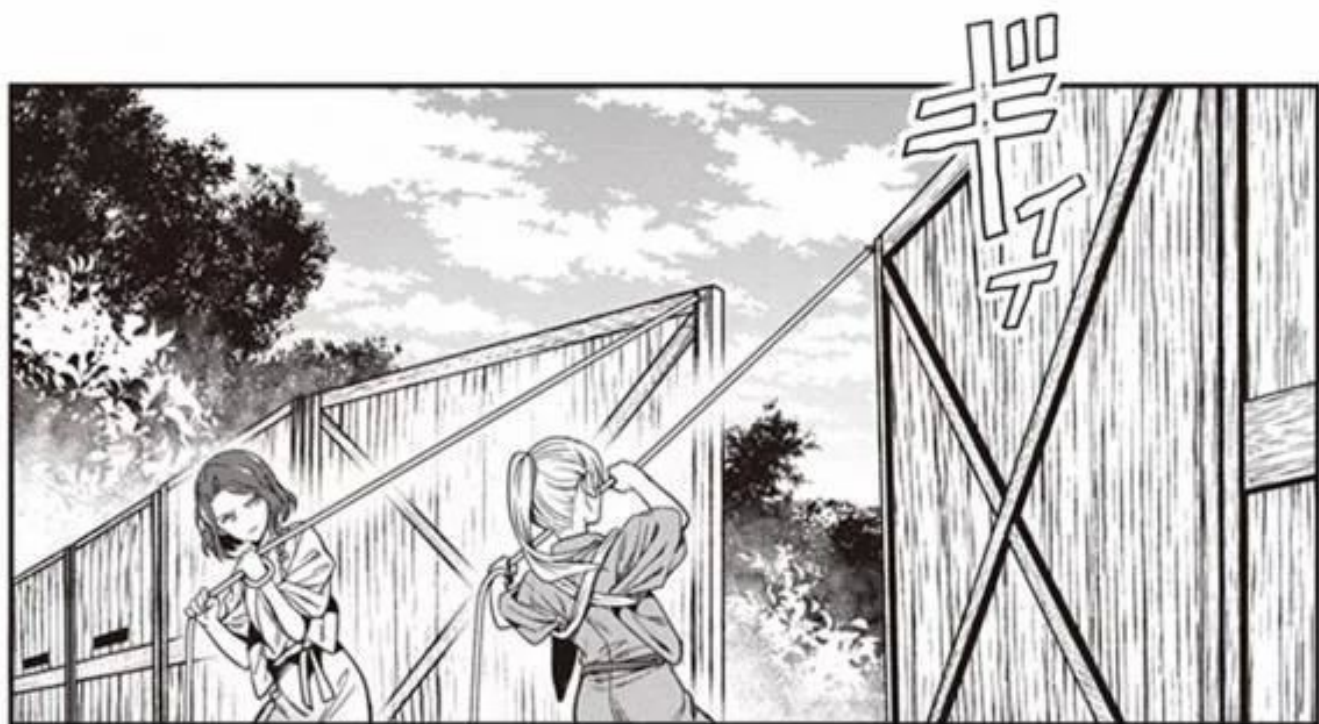
…頑張ってください



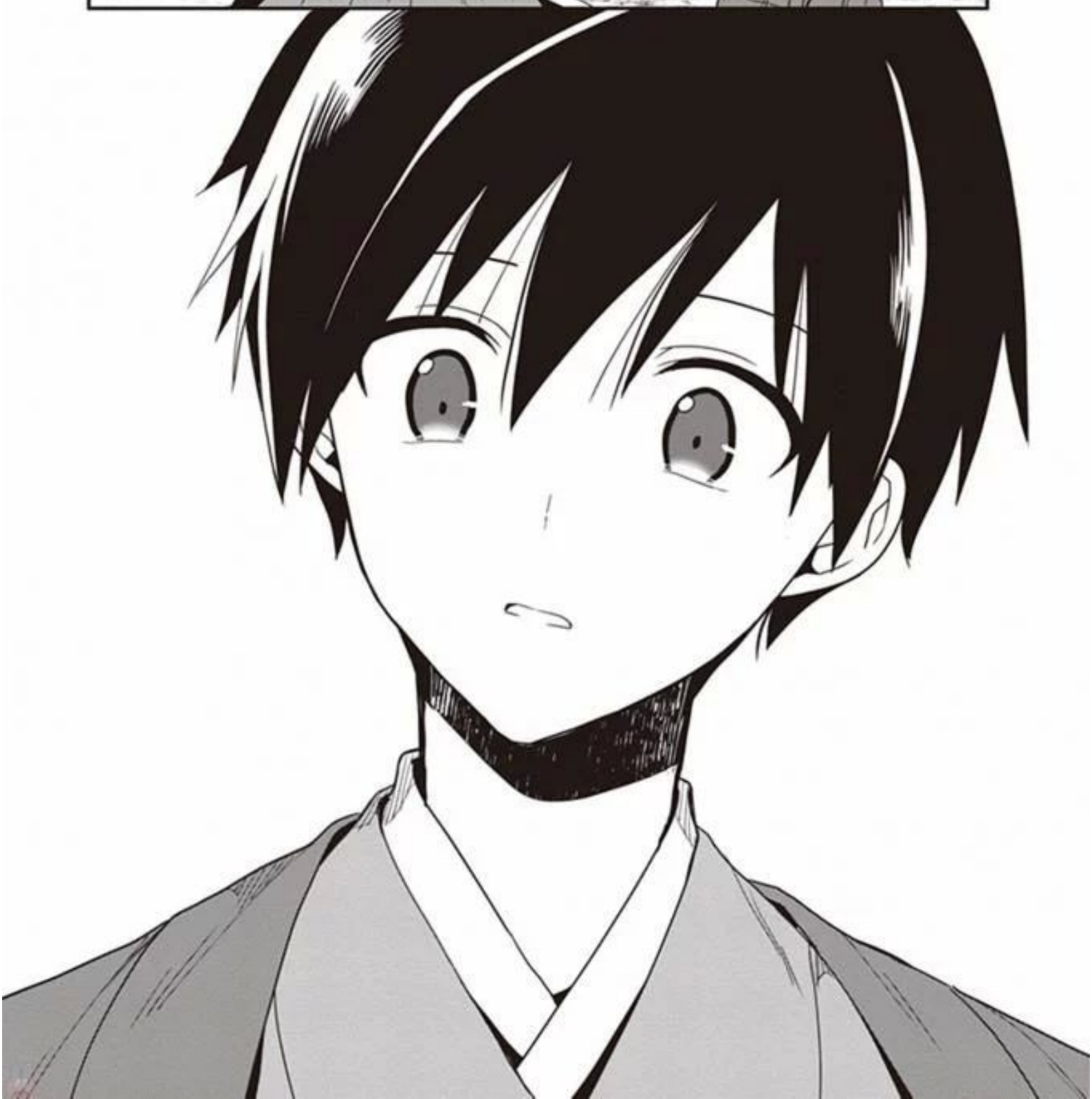
もちろん
ですとも
観音姫様!!

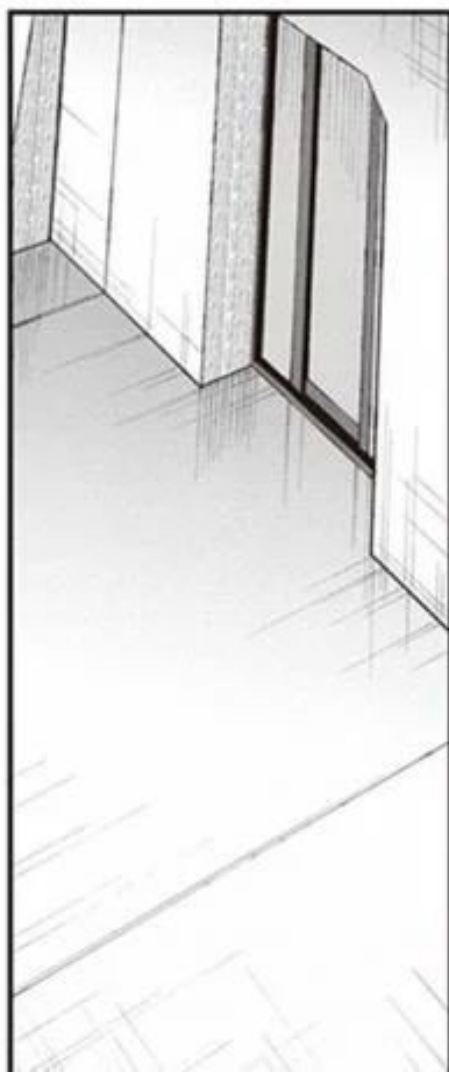
必ず邪魔な
あやつらを
始末してきますので

一郎太様ともども
心安らかに
お待ちください!!













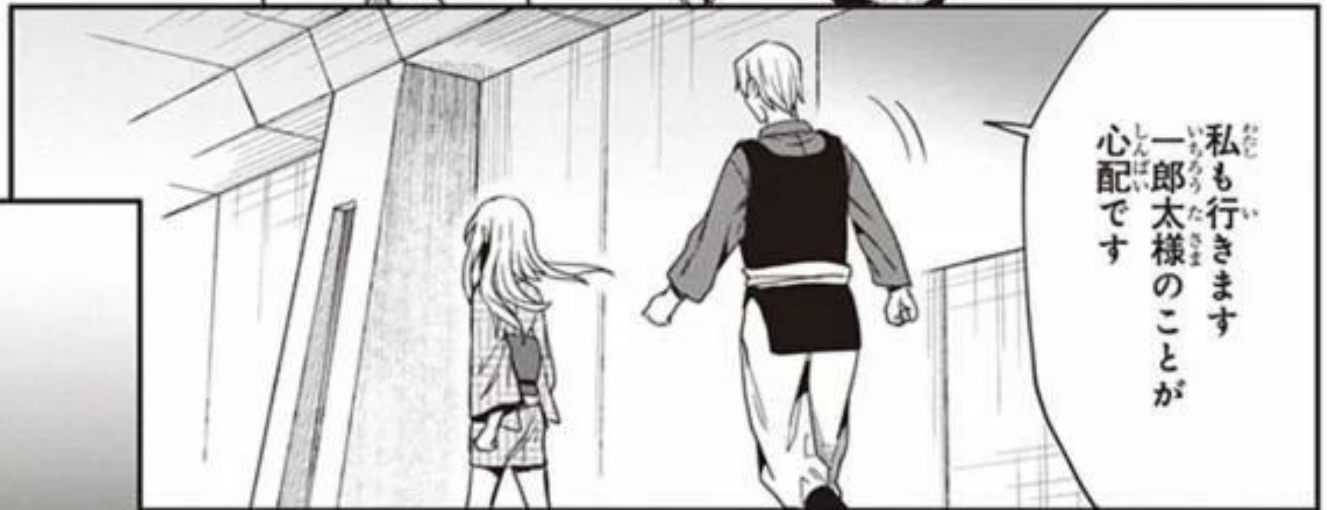


マハが
傷つけられただけで
あそこまで
取り乱すとは…



これ以上は
待っておれぬ

私が
連れ出そう



私も行きます
一郎太様のことが
心配です

ム
ム
ム



何を
している？

マハは
どうした





マハさんを
助ける方法を
思いついたんだよ！



マハさんの
身体は

では一度
外に――

そ
…そうか



僕たちと違って
一部機械で
出来ているから

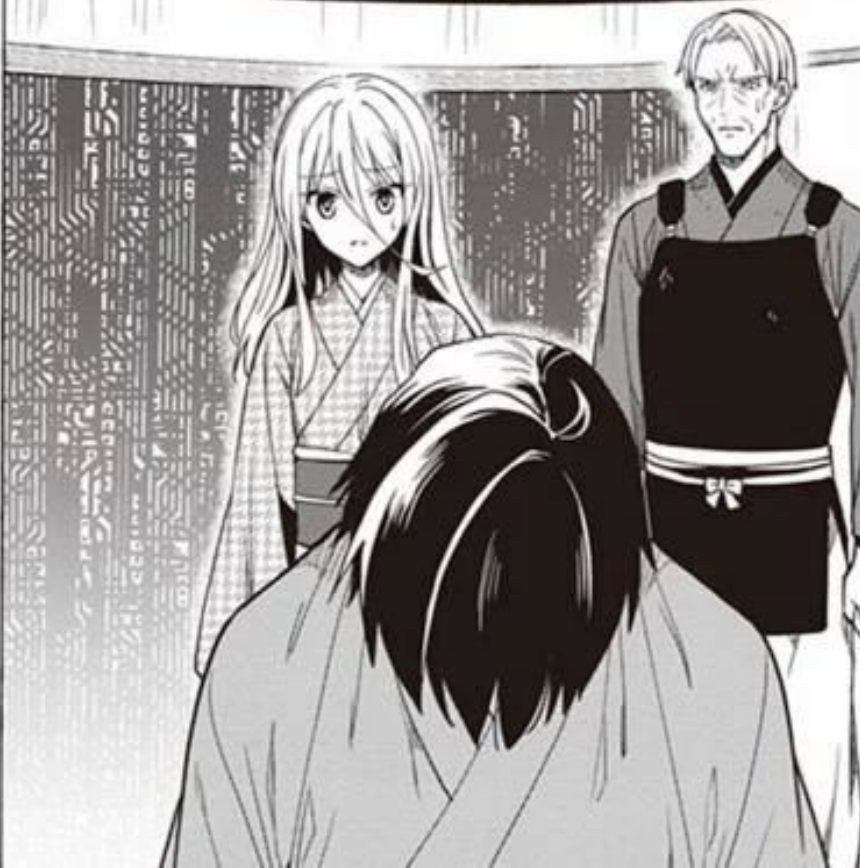
そこが傷つくと
ここの設備だけじゃ
直せない



だから
直せるところに
行かなくちゃ
いけないんだけど



そもそもこの船は
エネルギー切れで
もうこの惑星の
重力から離脱できない



エネルギーは今
星のエネルギーを
吸い出しているけど
時間がかかる……
たぶん四百年とか



だったら!

ズッ



この船には
そういう技術が
あるんだよ!

この空間を
船が飛べる虚空に
してしまえばいいって
思いついたんだ!



ちょっと
待って

え?


ここが
虚空になれば
どうなる?



もともとは
そのために
作られた技術
じゃないけど


空間跳躍
システムを
暴走させて...





でも
まわりにいるのは
敵^{てき}ばかりだし

しま島の人も元々
死んでいたんだし
いいんじゃないかな



…この島の
話^{はなし}だけではない



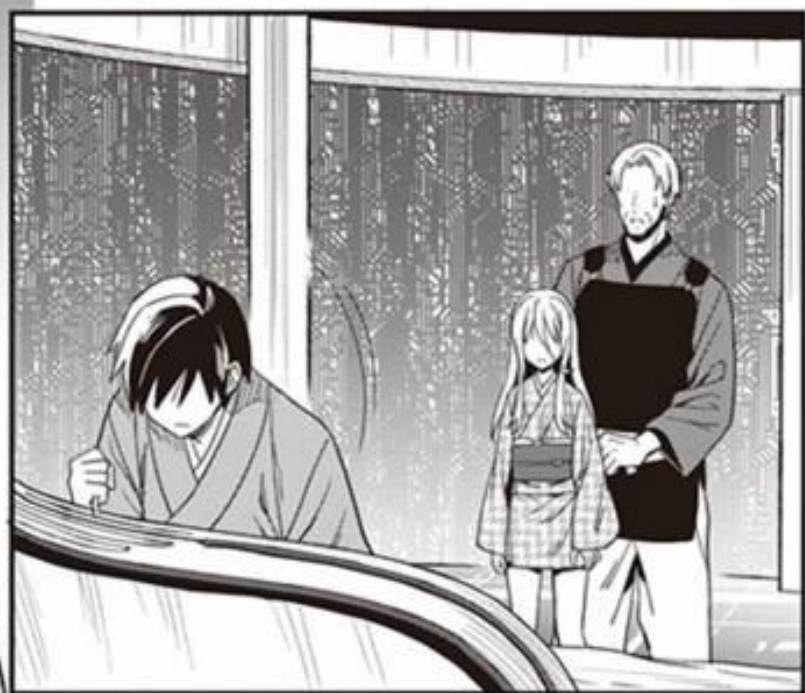


僕は
その人たちがより
マハさんが大切だ





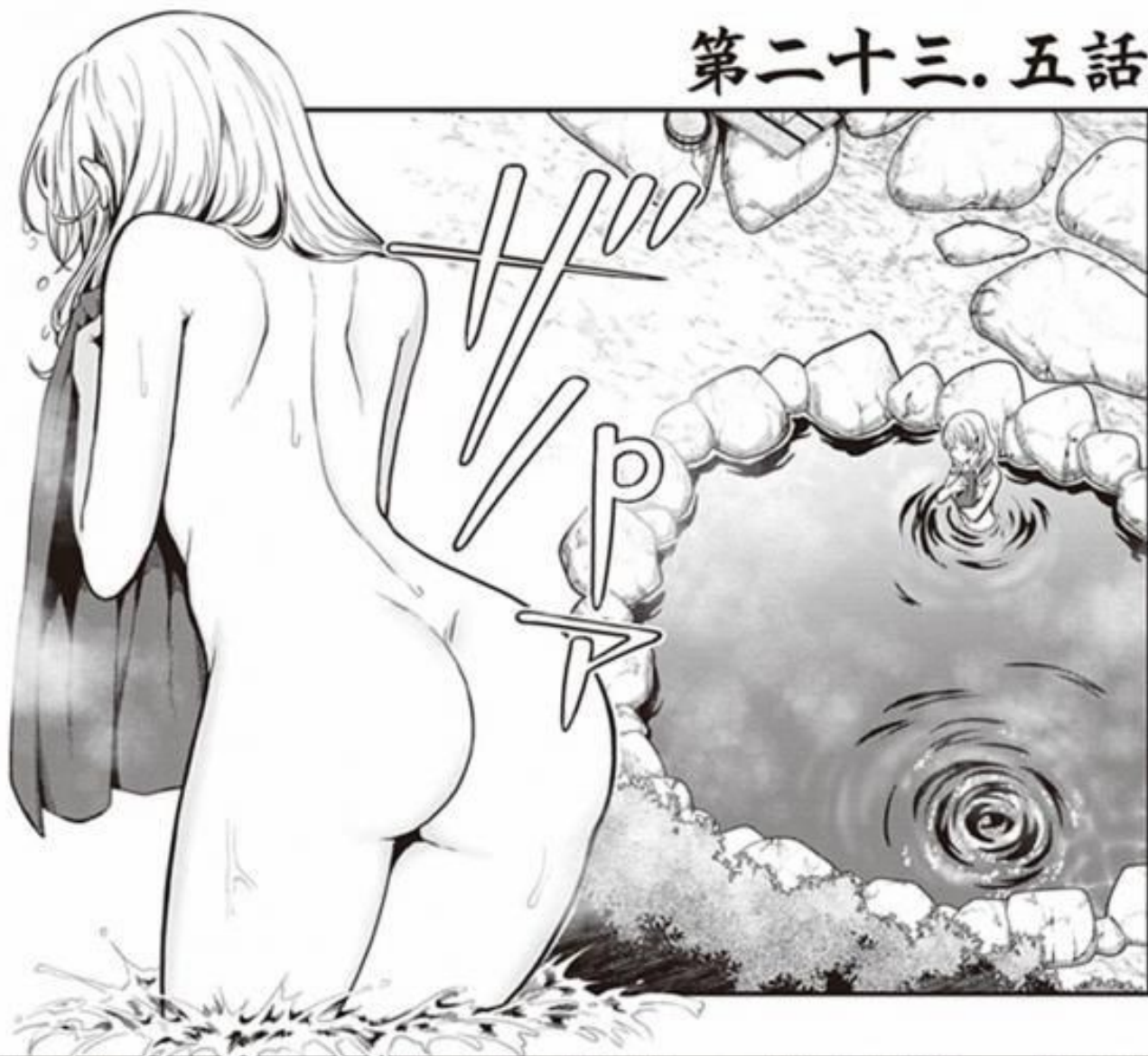
自由^{じゆう}でない
マハさんなんて…



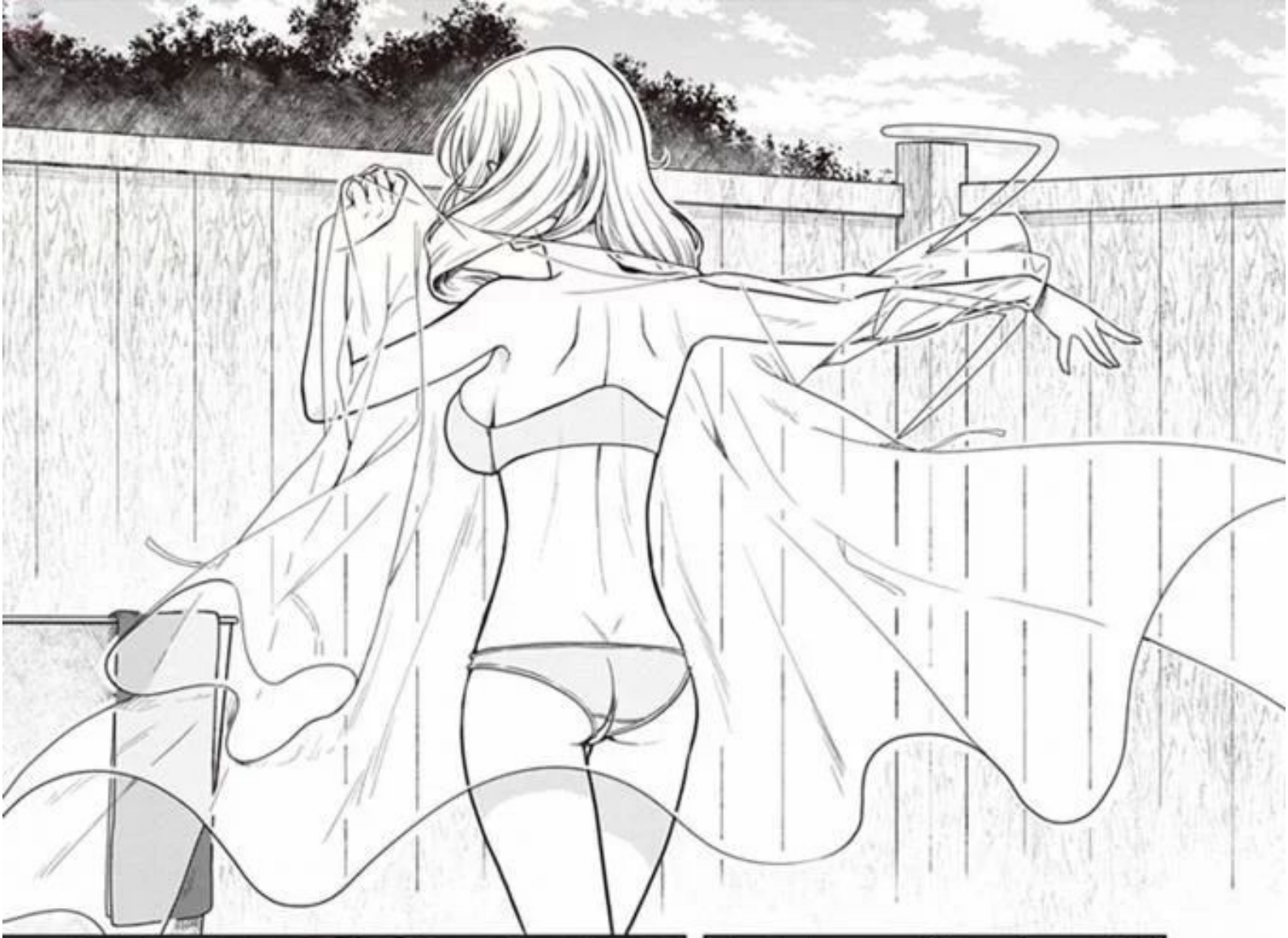
九巻に続く…

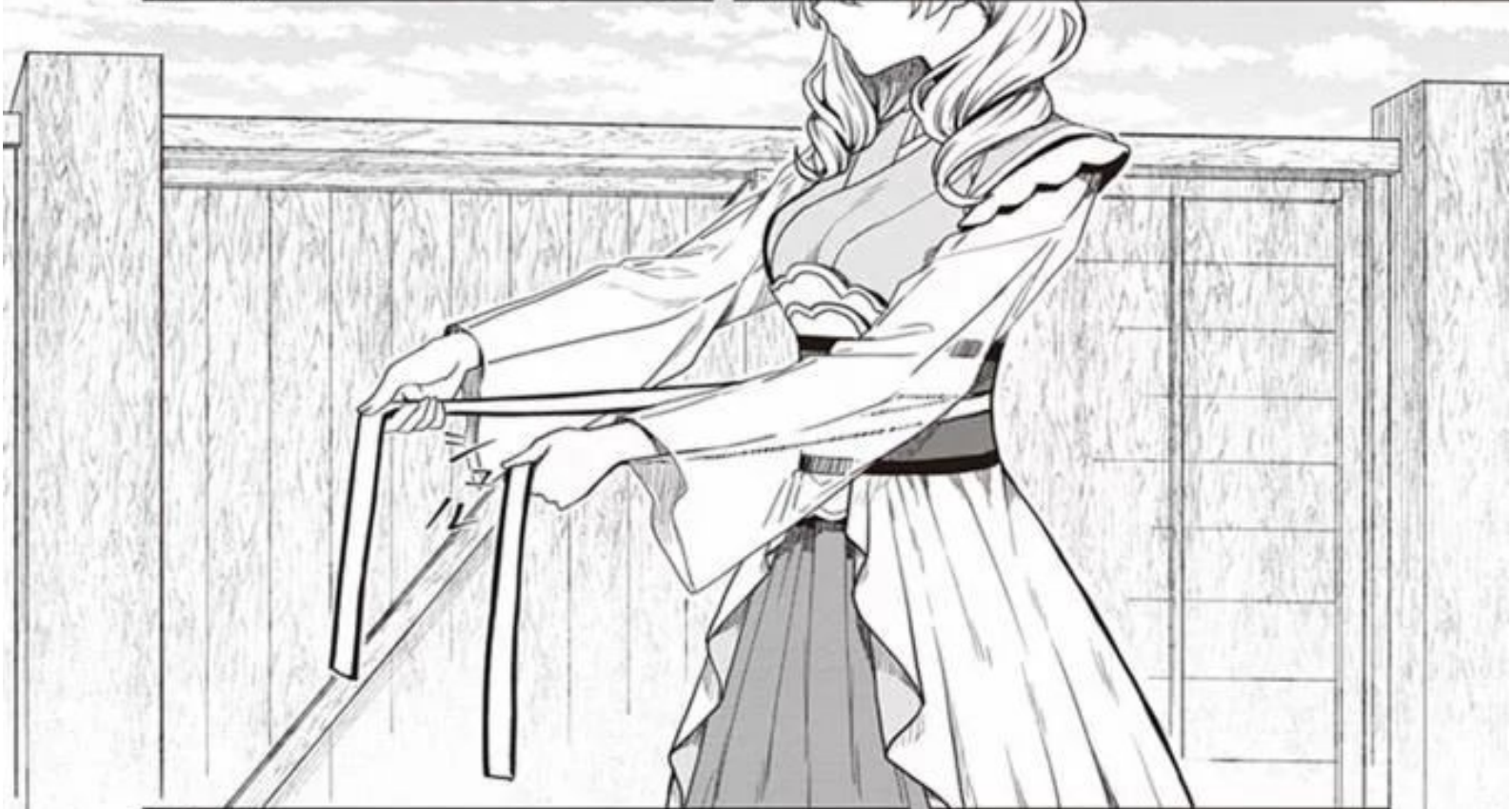
この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む

第二十三. 五話











マジか...



あー...



マハさん
いるかい?

予告

夜戸ハル

梶浦と同じ大学の研究室の

大人びた雰囲気を持つ美人の先輩の

伊喜島 出身だが、

本来入っているはずの

魂の記憶が目覚めず、

島人にはカルマ落ちと

呼ばれている……。

真相が明かされる………!

最終第⑨巻 2018年夏頃発売予定

次巻

五百年前、

星船に乗り、伊喜島を訪れた異星の人

一郎太との交流を通して、

島に星の技術をもたらした観音姫。

しかし、現在マハの体は壊され、

魂は呪いの樹に

あるとされているが……。

本当の彼女は——？

この島に淫らで 邪悪なモノが棲む すべての



8

原

つ

も

い

モ
ノ
カ
棲
む

邪
悪
な

玉
ら
で

こ
の
島
は



電撃コミックスNEXT

この島には淫らで邪悪なモノが棲む⑧

著者 原 つもい

2018年2月27日 発行

©TSUMOI HARA 2018

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
電撃コミックスNEXT『この島には淫らで邪悪なモノが棲む⑧』
2018年2月27日 初版発行

発行者 郡司 聡
発行 株式会社KADOKAWA
<http://www.kadokawa.co.jp/>
プロデュース アスキー・メディアワークス

アスキー・メディアワークス 「お問い合わせ」
[WEB] <http://asciimw.jp/info/inquiry/>

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信すること、
あるいはウェブサイトへの転載等を禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
本作品の内容は、底本発行時の取材・執筆内容にもとづきます。
また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。

カバー・本文デザイン 虻川貴子